

あなた、このまま**死**んでいい  
のでしょうか

塩川香世



あなた、  
このまま死んでいいのでしょうか

目次

はじめに..... 3

人間は、ひとりで生まれてきて、ひとりで死んでいくのです／13

切なる思い／21

あなた、このまま死んでいいのでしょうか／31

例えば……、思いを聞いてみてください／41

人間は、エネルギーの塊／113

今、生きることの失望し、自ら命を絶とうとしている人はいませんか／119

人間の泣き所は、生命と財産の消失です／131

意識の流れ／159

おわりに..... 176

## はじめに

今、あなたは、何を思っていますか。

日々の生活は、楽しいですか。

毎日、充実していますか。

あなたにとって、一番大切なことは何ですか。

私は、たったひとつの真実を求めて、今の時代に生まれてきました。

そして、半世紀の時間を経てきました。

ようやく辿り着いた真実の世界は、実に単純明快な世界でした。

それを、数式で表せば、 $1+2=3$ の世界です。

決して、 $1+2+3$ は通用しない世界です。

ここで、その真実の世界を、意識・波動の世界と表現しておきます。その世界は、 $1+2+3$ の世界です。

一方、私は、 $1+2+3$ 、そして、 $1+2+3$ でもいい世界も知っています。もつとも、この世界は、私のみならず、今、この本を手にくださっているあなた自身も、よく知っている世界です。

真実の世界を、意識・波動の世界と表現するならば、この $1+2+3$ 、そして、 $1+2+3$ でもいい世界は、形の世界と表現することにします。

ところで、私は、先ほど、ようやく辿り着いた真実の世界と言いましたが、実はそうなのです。

私達人間は、形の世界には、よくよく馴染んでいます、意識・波動の世

界には、とんと疎<sup>うと</sup>いのです。

例えば、私が、今、あなたに、こう伝えとします。

「私達の本当の姿は、目には見えません。形はありません。」

そうすれば、あなたは、一体どのように返答するでしょうか。

確かに、あなたは、返答に詰まるでしょう。

それとも、反論しますか、全く無視ですか。

今、あなたの態度が、そののどれでも、私は構いません。

それよりも、今、あなたが、この本を手にとってくださっていることを、

私は歓迎したいと思います。

なぜならば、今のあなたは、おそらく、何かを求めているからです。

きっと、あなたは、文頭に載せたようなことについて、あなたなりに、こ

れまでに色々と考えてこられたと思います。

しかし、今現在、あなたはまだ、自分の心に合致するものに出会えていないでしょう。

だからこそ、あなたは、どこかにその出会いを求めて、今までやってこられたのだと思いますし、この本のページを開いてくださったのではないのでしょうか。

そこで、私は、そんなあなたに、ぜひとも、真実の世界の扉を開いて、中へ入ってきていただきたいと思っています。

そして、本当に私達がしていかなければならないことは何なのかということについて、あなたに、この本を通して考えてみていただきたいのです。

私は、人間は、どのような人生を生きてきても、また、たとえば、どのように世間に認められ、どんなに立派な功績を残しても、自分達の本当の姿を知

らないならば、その心の世界、意識・波動の世界は、簡単に言えば、とても苦しいものだということを、お伝えしたいのです。

そして、心の世界、意識・波動の世界が苦しいということは、私達は、決して幸せではないということを、お伝えしたいのです。

今、どんなに裕福でも、どんなに高い評価を得ていても、たとえ我が人生バラ色であっても、その人の意識・波動の世界がどうなのかということが、ただひとつの最大の問題です。

しかし、今の私達の社会において、そんなことは全く眼中にないと思います。

それよりも経済、それよりも健康、それよりも云々というように、私達には、みんなそれぞれに自分の基準があります。自分は何を大切にしているか、何に重きを置いているか、何に価値を見出そうとしているか、人それぞれに

判断する基準があります。

幸せの基準も喜びの基準も、それぞれに違います。

そして、人それぞれ、人生色々、様々な価値観と価値基準があつてよしとされています。

そのような中で、私は、問いかけてみたいのです。

あなたは、今、死んでも大丈夫でしょうか。

いいえ、まだ死にたくない……。

まだ、私が死ぬはずがない……。

まだ、私は死ねない……。

あなたなら、どう答えますか。もっと他に違う返答があるかもしれませんが、今少し考えてみてください。

さらに、「まだ死にたくない」「死ぬはずがない」「まだ死ねない」のあと、どのように続いていきますか。

それぞれ、自分に問いかけてみてください。

さて、ここで話を戻します。形の世界と意識・波動の世界のところまで戻します。

人それぞれ、人生色々、様々な価値観と価値基準というのは、実は、みんな形の世界の話です。

つまり、人それぞれ、人生色々と言っているのは、私達人間は、自分達を形あるものとしてとらえて、それを根本にして、人それぞれ、人生色々な

です。

人それぞれであって、人生色々であるようでも、その根っこはというと、みんな同じです。根本は形の世界です。

目に映り、耳に聞こえる世界、つまり、形の世界が根本です。

様々な価値観、価値基準も、根本は、形の世界です。

しかし、本来は、そうではないのです。

人間を含め、すべての存在は、意識・波動の世界が根本だというのが、本来の姿だから、その本来の姿に戻っていきましようということなのです。

人間以外の動物、植物、生きとし生けるものはみんな、自分達の本来の姿を知っています。

知らないのは、私達人間だけです。何も本当のことを知らないで、悪戦苦闘しているのが私達なのです。

私達人間は、これまで、形の世界を根本として生きて、そして、死んでいききました。

私は、その中で、どんなに人間が奮闘努力をしても、根本が全く間違っているから、本当の幸せは分かるはずはないし、もちろん、本当の喜びも分からないということを、あえて言わせていただきます。

形の世界と意識・波動の世界、どちらを自分の根本にするかで、生き方、死に方が、全く違ってきます。

どうぞ、色々と考えてみてください。

本当に、考えてみてください。

考えて分かるようなことではないかもしれないけれど、機会あるごとに、自分に問いかけてみてください。

あなたの人生、本当に、今のままでいいのでしょうか。

人それぞれ、人生色々、そうやって、あなたは、死んでいくのでしょうか。

どうぞ、機会あるごとに問いかけながら、本当のことを知ることが、  
いいえ、それだけが、今、私達に待たれていることだと知っていただくさい。

人間は、ひとりで生まれてきて、  
ひとりで死んでいくのです

本当のことを知ることが待たれていると書きました。

それでは、本当のこととは何でしょうか。

本当に、人生色々なのでしょうか。

本当のことを知っていくための人生だけが、本当の人生ではないのでしょうか。

また、本当のことを知らない人達の意識の世界は苦しい世界だということ、そして、その意識の世界が苦しければ、私達は幸せでないということも書きました。

基準とする根本のことも書いてみました。

それらを、あなたのどこか片隅に置いておいてください。

そもそも、あなたは、日常の中で、自分の心が苦しいと感じていますか。

その前に、心が苦しいということは、どういうことだと思いますか。

例えば、人を恨んだり、憎んだり、妬んだり、怒ったり、罵り、支配し、蔑み、責め裁き、恐怖したとき、あなたは、幸せですか。

泣いたり、喚いたり、不平不満、愚痴を言っているとき、嘆き哀しみ、打ちひしがれているとき、絶えず、人と比べ合い、競い合い、その中で、自分を誇るとき、あるいは自分が落ち込むとき、そして、相手をどんどん攻撃するときのあなたは、どうでしょうか。

心が苦しい……、心が苦しいことすら分らない人もいます、  
今、私達は、自分を形あるものとしてとらえ、目に見えて、耳に聞こえて、手に触れることのできる現実を、現実としてとらえているから、私達の心は苦しくて当たり前なのです。

それを、何かで紛らわせて、何かで誤魔化して、あるいは、何かにエネルギー

を集中させて、自分の心の苦しみを、真正面から見ようとしただけです。

大抵は、自分の心が苦しい、自分は苦しいということが分からずに、人生という時間が、夢うつつのうちにあつという間に過ぎ去っていつてしまいきます。

そして、私達は、苦しみを紛らわせて、誤魔化して、その中で、幸せを求めていこうとしています。

しかも、紛らわせていることも、誤魔化していることも分からずに、気付かずにいます。

それが、事実だとしたら、そんなことをして、本当に幸せを感じていくことができると、あなたは思いますか。

自分の中の苦しみと真向かいにならずに、夢うつつのうちに時間が過ぎ去ってしまうのが、私達人間の現実、実際です。

私は、その現実、実状を自分で打破して、自分を変革させてこそ、本当のことが分かってくると確信しています。

そして、今の自分の現実、実状を打破する方法、自分を変革する方法は、ただひとつしかないことも知っています。

それは、自分は形の世界にあるのではなくて、意識・波動の世界の中にあることを知っていくこと、つまり、自分の根本を変えることだと確信しています。

ところで、人間は、どんな人も、ひとりで生まれてきて、ひとりで死んでいきます。

何も持たずに生まれてきて、何も持たずに、いいえ、何も持たずに死んでいくのです。

そうは言っても、ここでも色々反論はあると思います。

初めから、誉れの高い家柄や身分が備わっているとか、経済的に裕福であるとか、その他諸々の潜在的な能力を持って生まれてくる人もたくさんいるとか、そういう現実はあるでしょう。

それは、なるほどそうかもしれませんが。

人間には、最初から、持つ者と持たざる者との差別があります。

しかし、基本的には、人間は、裸で生まれてきます。

そして、どんな人もみんな同じ、喜びで生まれてきます。

たとえば、最初から、持つ者と持たざる者との差別はあったとしても、裸で、そして、喜びで生まれてくるのです。

しかしながら、今、目に映っている空間を本物と信じ、今、耳に聞こえる空間を本物と信じ、今、その目と耳を持っている自分、その姿、形あるひと

りの人間を自分自身だと信じて疑わない思いのままならば、どのみち、みんな同じ苦しみの中にあるに過ぎないと言えるでしょう。

持たざる者が、色々な面において苦しいのは、合点がいくかもしれません。しかし、持つ者もまた、苦しみの中にあるというのは、どうでしょうか。あなたは、本当の自分を知らないがゆえの苦しみをご存じでしょうか。人間の様々な苦悩は、すべて、そこに端を発していると、私は思っています。



切なる思い

私達の本当の姿は、目に見えません。形がないのです。

では、形がない私達は、なぜ形を伴ってくるのでしょうか。つまり、なぜ、私達は生まれてくるのでしょうか。

生まれてくるということは、それなりの意味があると思いませんか。

何となく生まれてくるはずはありません。

そうです、そこには、実は「生まれるたい」という自分達の切なる思いがありました。

ただただ、「自分に形をください」という切なる思いです。

だから、私達は、何も持たずに生まれてきます。持つ必要などないのです。ただ、「自分に形をください」という切なる思いだけを持って、生まれてくるのです。

人間はみんな、その切なる思いだけを心に秘め、そして、生まれてきます。

では、その切なる思いとは、どのような思いなのでしょう。

それは、一言で言うならば、心の叫びです。

本当のことが知りたい、温もりに帰りたい、本来の自分に帰りたいという、地獄の奥底からの自分自身の叫びと理解してください。

人間はみんな、今度こそ、その自分の心からの叫びをしつかりと受け止めてやるぞという意気込みで、お母さんのお腹から生まれてきます。

だから、生まれてくるということは、大変なことなのです。

その思いは、生半可な思いではありません。

もし、自分自身の心の叫びを解き放つ上で、由緒正しい家柄や身分、ある種の能力等が必要ならば、その切なる思いは、そのようなものを、きちんと用意していきます。

その他、本当のことを知っていかうとするために「自分に形をください」と切望する思いは、すべての点において、抜かりなく準備を整えて、この世に生まれ出てくるのです。

それが、私達の偽らざる思いです。

ただし、私達は、それだけの思いを秘めて生まれ出てきたのに、悲しいことに、ひとたび、この世の空気を吸ってしまえば、形を本物とする思いが、ニヨキニヨキと迫り出してきて、しかも、その思いは、圧倒的な強さで、心の奥底に秘めた思いを遠くに追いやってしまいます。

もともと、すべては公平、平等であるのに、形の世界の区別、差別に心を奪われ、自分の切なる思いに、なかなか気付くことができなくなるのです。

そのような転生を積み重ね、持つ者と持たざる者との格差が、次第に自分達の中で広がっていき、私達の意識の世界は、墮落の一途を辿ってきました。

しかし、その一方で、人間達の意識の体たらくの中でも、「生きたい」という切なる思いは、どんどん仕事をします。

そう、思いは仕事をするのです。

私達が蓄えてきたさまざまなエネルギーを、しっかりと確認できるように、色々な形となって、私達に見させてくれます。

例えば、そのエネルギーは、この世的に言えば、様々な分野で活躍するという形となって表現されるのです。

そして、その結果、当然、そのエネルギーの持ち主は、財を築き、名声を博していくでしょう。

そして、そのまた結果として、そのほとんどの人達は、自分を見失っていきま

財を築き、名声を博した自分は偉いと思い、どんどん自分を見失っていくのです。

自分達のエネルギーのすさまじさを確認するのではなくて、それを大きく膨らませていく結果としてしまいます。

つまり、自分達の中にある、形を本物とする思いを、より一層強くして、その思いにしがみついてしまいます。

墮落してしまった人間の意識は、「自分に形をください、生まれたいのです」という切なる思いを、すでに、どこかへ追いやってしまっているから、本来辿るべき道を歩めないのです。

持つ者は、そういうものを駆使して、この世的に成功するかもしれませんが、本来辿るべき道を歩んでいないから、やがて、「生まれたい」という切なる思いは、当然、その人に、間違っていますよというメッセージを伝えます。

本来の思いに沿っていくように促します。

一方、自ら持たざる者を設定して、それによって、自分の蓄えてきたすさまじいエネルギーを確認していこうとする場合は、残念ながら、その作業は、より困難を伴います。

すさまじいエネルギーをより大きくしてしまう確率は、非常に高いです。形を本物とする思いにとつて、持たざる者という設定は、大変厳しいと思います。

だから、非常に高い確率で、「生きたい」という切なる思いを、どこかへ追いやってしまう結果となっていくのです。

当然、この場合も、間違っていますよというメッセージが伝えられます。

このように、私達は、人生の中で、色々な形を通して、間違っていますと促されていきます。

しかし、それが、自分が自分に流すメッセージ、自分が自分に発する警告、そういうふうには、なかなか気付けないし、受け取ることはできません。

あなた、なぜ生まれてきたのですか。

あなたのすべきことは、何なのでしょうか。

あなた、このままでいいのでしょうか。

このまま死んでいいのでしょうか。

絶えず、このようなメッセージが伝えられているのです。

自分の中の切なる思いは、絶えず、そう問いかけています。しかし、悲しいことに、人間は、今、形として確認できる自分を自分だと思ってしまうているから、自分自身の心の叫びである切なる思いは、心に響いてこないの

す。

だから、今現在の自分だけしか見えないところからは、結局、人生の終焉しゆうえんを迎える時期にあたり、自分は、一体何をしてきたのかという思いが心に過ぎるのでしよう。

そして、ほとんどの人間は、その思いに答えを出せずに、彷徨さまよいながら、死んでいくのだと思います。

どんなに、この世で、一生懸命に何かを追い求め、何かに全力投球をしても、本当は、その先が見えないのではないのでしょうか。その先は不透明なのではないのでしょうか。

だから、人は死を恐怖します。何も持てずに死んでいくことに恐怖します。確かに、死んで持っていけるものはありません。

あの人は立派な人だ、素晴らしい功績があると、どれだけ世間から賞賛を浴びようとも、その人自身、死んでいくときに、持っていけるものは何も無いのです。

この世的なものは、何一つ持つていくことができません。

さて、あなたは、これからどのくらい生きていくのでしょうか。あなたに残された人生の時間は、どれくらいあるのでしょうか。

自分はこのまま死んでいいのだろうか。

それぞれ、心に問いかけてみてください。

あなた、このまま死んでいいのでしょうか

私達は、なぜ生まれてきたのか、

そして、なぜ、死んでいくのか、

今を大切に生きるとはどういうことなのか、

大きなテーマだと思います。

この地球上で、毎日、毎日、たくさんの人達が生まれてきて、たくさんの人達が死んでいきます。

人間は、一体何をするために、生まれてくるのでしょうか。

あなたは、生まれてくることは、喜びだと思えますか。

そして、死んでいくことはどうでしょうか。

一般的には、誕生には笑顔が、そして、葬送には涙が添えられます。これは、どうしてでしょうか。

あなた、このまま死んでいいのでしょうか

生は明で、死は暗、あなたは、そう思っていますか。

私は、人間は、何のために生まれてくるのかということが、はつきりと自分の心で分らない限り、生を明、つまり、本当に喜びととらえることはできないし、死は暗、つまり、死の恐怖から解放されることもないと思っ  
ます。

誕生は喜びであり、死もまた喜び。

人間は、ありがとうで生まれてきて、ありがとうで死んでいく。

これが、本来の人間のあるべき姿です。

結論を言ってしまうと、こうなのです。

しかし、このことを、心で納得するには、大変です。

なかなか、心からありがとうと言って、死んでいけません。それが人間です。

例えば、ありがとうと言って、死んでいくといつても、一体誰に言うのでしょうか。

自分を最後まで看取ってくれた人達に、でしょうか。

もちろん、そういう人達には、ありがとうと言えるかもしれません。言えるでしょう。

では、あなたは、本当に自分にありがとう、心の底からありがとうと言って、死んでいきますか。

人間の本来あるべき本当の姿、それに巡り合わない人生の終焉しゆうえんに、自分にありがとう、心の底からありがとうは言えないと、私は思っています。

私達人間は、自分達のあるべき本当の姿とは何か、それをみんな求めてきたのです。

生まれて、そして死んでいく、その時間の中で、人それぞれに様々な出来事を体験していきます。

悲しいこと辛いこと、嬉しいこと喜びとすること、様々です。

幸せの絶頂を描く人もあれば、奈落の底に落ちていく人生を描く人もあります。

前者が幸せで、後者は本当に不幸せなのでしょうか。

私は、「自分がなぜ生まれてきたのか、そして、なぜ死んでいくのか」、「今の時間が自分にとって、どのような意味があるのか」、「本当のこととは何か」、そういうことが、自分の心で感じられない限り、決して、本当の幸せは分らない、分るはずがないと思うのです。いいえ、生まれて五十年という年月を経た今、私は、そうはつきりと言えます。

そういうことを、心で感じられずに、私の人生は幸せな人生でしたと死ん

でいく人達も、私の人生は不本意な人生だったと死んでいく人達も、みんなみんな、今のままで死んでいつてはいけない、本当はいけないんだと、そう言いたいのです。

もともと、私が声を大にして、このまま死んでいつてはいけないと言つても、では、具体的に何をどうすればいいのかということになれば、それは、一口では説明できないのです。また、唐突に言つてみても、なかなか納得していただけないと思います。

しかし、一人ひとりが、今の時間の中で、少し立ち止まって考えてみるということはできると思います。

それも本当は難しいかもしれないけれど、立ち止まって考えてほしいと、私は思っています。

そもそも、人間は、みんな、形ある世界が現実の世界だと思い続け、自分もまた、今の形ある姿の自分が、自分だということに何の疑問もなく生活してきているわけだから、当然、自分が現実だとしていることに、思いを向けていきます。心も身体もみんな、その方向に向かつて使っていきます。

そのような現状を踏まえつつ、今のあなたの生活の中で、考えてみてください。

とりあえず、今は特段の悩みも問題もなく、何となくとか、成り行きに任せてとか、ぼんやりと今の時間を過ごしている人達も、今、自分の目の前にすべきことがたくさんあって、忙しい、忙しいと時間に追われながらも、充実した楽しい時を過している人達も、少し立ち止まって考えてみてください。

そして、今、大きな悩み、問題を抱えている人もまた、少しの時間、そこ

から心を離して、考えてみてください。

それぞれに、幸せ、喜びの価値基準は様々ですが、幸せや喜びを求める思いというものは、みんなに共通です。

だから、そのために、大いに悩み苦しみ、そして奮闘努力の中で、それぞれの時間を終えていくと思います。

そうです。今、どのような環境の中に身を置いていても、私達は、やがては死んでいきます。

人間は、一生懸命に生きて、やがて死んでいくのです。果たして、それだけいいと、あなたは思いますか。

それだけでは、自分が生まれてきたことについて、何か大切なものが欠けているとは思いませんか。

本当にあなたは、今の自分に満足ですか。

自分が生まれてきた意味、目的は何だと思えますか。

そして、死んでいくことに對して、どのような思いを持っていますか。

私は、どんなに名声を博し、財を築こうが、本当のことを知らずにいる人の心の中は苦しいと思っています。

本当のことを知らずに、今のまま、今の状態で、死んでいくということは、その人は、苦しみを引きずっていくことだと解釈しています。

これから、何人かの人達の心の世界を辿ってみることにします。

それによって、「このまま死んでいいのだろうか」ということについて、それぞれ皆さんが、自分の中で考えるきっかけになってくだされば、

いいなあと思います。

世の中で、一応の成功を収めた人達、例えば、その人達は、周りから見れば、輝かしい幸せな時間を過ごし、本当に人生は素晴らしいと、人生をエンジョイしている人達のように見えるでしょう。

しかし、心の世界は違うと思います。

本当にその人達が、今の時間の中で、自分を楽しんでいるか、今の時間を堪能しているか、心の中を少し語っていただくことで、表から見た様子とその人の内面は、違っている、あるいは、かけ離れていることが感じられると思います。

その心の世界を辿りながら、本当のことを知らないがゆえのやるせなさ、辛さ、そういうものを何かしら、感じていつていただければと思います。

例えば……、  
思いを聞いてみてください

それでは、色々な分野で活躍されている人達に、今、思いを向けてみます。その人達に思いを向けて、その人達に語っていただきます。

おそらく、私の心に伝わってくる思いは、どれもこれも苦しい思いばかりでしょう。

彼等も、確かに、自分の今の年齢に達してみて、自分が生きてきた時間や、自分が死んでいくことについて、何かを感じているだろうと思います。

しかし、結論から言えば、彼等に、今の生活や、今の環境の中で、自分の生きる方向を根本的に変えることを求めるのは、もはや難しいでしょう。

また、「今の自分を自分だと思っている思いが、間違っています。本当のあなたは、今、あなたの目に映っている姿、形のあなたではありません」と、唐突に言ってみても、それは、全く、信じられないことだろうと思いますし、一笑に付されることでしょう。

私は、そのようなことを期待しているではありません。今、私と全く関わりのない人達に、こうして、目を閉じて、思いを向けるとき、その人達から、確かに、伝わってくるものがあります。ただ、その人と思うだけで、伝わってくるものがあるのです。

私は、その人達と、面識もなければ何もあります。

面識がない私が、その人達に色々と聞いていけば、その人達は、返答をしてくれます。

しかし、ここで間違えないでください。

彼等の心の中を探ることが目的ではありません。

彼等は、いわゆるひとつのサンプルです。少し、語っていただくことによって、そこから、人間というものについて、少し考えてみましょうということなのです。

形を見れば、立派かもしれません。しかし、心の世界はどうでしょうか。

結局は、苦しい思いを抱えたまま、この世を去っていくとなれば、その築いてきた地位、名誉、財産などというものは、一体何なのでしょうか。

持つ者と持たざる者によつて、区別差別、優劣のある人間社会とは、一体何なのでしょうか。

実際は、みんな何ら変わりはないと感じられると思います。

そうです。

本当のことを知らない人間にとっては、たとえば、どんなにこの世的に、賞賛されようとも、心の中は苦しいということを知っていただきたいのです。

芸能活動をされている人達、特に、俳優さんであるとか、歌い手さんには、心の敏感な人が多く見受けられると思います。

芝居や歌の世界に、ぐっと思いを入れ込んで演じ、歌うからこそ、観客を魅了します。役に成り切る姿、歌の世界に溶け込む様は、時には、鬼気迫る思いすら感じます。

その世界から、何人かの人達を紹介します。

#### 語り人 A

「私は、今、この世界では、頂点に登りつめている者です。たくさんの弟子を抱えています。私の許を訪ねる若い人達もございます。みんな、歌うことを喜びとし、歌に情熱を傾けている、そのような若者達でございます。

彼等を見て、私も、ああ、若かった頃を、自分の若かりし頃を思い起こしております。

そして、過ぎ去った年月を振り返るとき、私は、何とも言えないものを感じています。

あの当時のほうが、自分はずっと幸せだった。

確かに、生活は、そんなに楽ではありませんでした。将来の見通しが立たないまま、しかし、私は、歌を愛し、歌うことに情熱を傾け、そして、私の歌を聴いてくださる人達とともに、心をひとつにして、楽しい時間を過ごさせていただきました。

今は、この世界では、私は、名を挙げています。私の名を知らない人はいないと思います。

私は、確かに歌を愛しています。愛してきました。歌うことに、私のすべてを賭けてきました。

しかし、この年になってみると、私は、一体何を求めてきたのだろうかと、

少々このような思いに、今至っております。

身体のあちらこちらが痛んできます。昔ほどの情熱を歌に傾けることができなくなりました。

私には、何というか、歌を支えにして生きてきた自分の心の世界、それを、今思いやると、ああ、私は、一体何をしてきたのだろうか、そう思わざるを得ないのです。」

この人は、確かに、歌うことが好きで、歌とともに自分の人生を生きてこられたと思います。

山あり谷ありの人生も、自分には歌があつたから救われた、歌うことが自分の支えとなってきた、私は歌とともに成長してきましたという感慨を持つておられると思います。

このことは、何もこの人ひとりに限ったことではないと思います。

歌の世界にしろ、役者の世界にしろ、芸能、スポーツその他色々な分野で活躍してきた人達は、我が人生に悔いはなしと思っておられると思います。そして、例えば、歌い手さんならば、私には歌があつたから今までやってこれたとか、これからも頑張つて、私は歌とともに生きていきますといったコメントをされると思います。

皆さん、おそらく、そのように胸を張つて語られたことは、本当にそのように思っておられると思います。

そして、歌を抜きにしては、自分を、そして、人生を語ることができないということでしょう。

ここで考えていただきたいのは、今、皆さん、自分というものを、どのようにとらえておられるかということです。

例えば、語り人Aさんは、もちろん、歌手である今の自分しか知りません。そして、歌の世界において、頂点に立っているにもかかわらずに、その自分の中に、ある種の何か疑問符があるのを感じているのです。

年齢を重ねてきた今だからこそ、そして、今の自分の終わりが見え始めてきたからこそ、何かが、自分の中でざわめいているのを感じるのです。

しかし、表面には、そういうことは、おくびにも出さないかもしれません。もしかすると、出せないのかもしれませんが。

そして、感じるだけで、それが何なのか分からない状態であり、分からない状態のまま、時間が過ぎ去っていくことなのでしょう。やがて、自分の死を迎えます。

今、目に見えている自分だけを自分だとして生きていく人生、生きてきた

人生は、果たして、本当の人生なのでしょうか。

あなたは、我が人生に悔いはなしのまま、本当に安らかに死んでいけますか。

## 語り人B

「私は、生きるか死ぬかの境界を彷徨<sup>さまよ</sup>って、そしてまたこの世に、戻ってきた体験があります。あの時の体験は、言葉では言い表すことができない。

だけど、私は、もう一度、この命を取り戻しました。そして、私は、それから、自分の人生観が変わりました。

あれは、すごい体験でした。あの体験がある前は、私は、人生おもしろおかしく、適当に楽しんでいればいい。金などいくらでも稼げる方法を、私は

知っている。だから、適当にうまくやっていけばいいんだ。あくせくしなくても、金は稼げる。この口ひとつで稼いでやる。そして、お金に群がる者と、チャランポランに生きていればいいんだ。

そうやって、毎日、毎日を送ってきました。

ああ、でも私は、あの日を境に、この心の中に、伝わってくる、そういう自分の何かしら思いが、変わってくるのが分かるんです。

うまく言えませんが、人間の心の奥底を見たような気がします。その奥底に潜む何かを、私は、そう、描いてみたい。描いてみたいけど、自分が何者であるのか、私には、さっぱり分からない。人間って何なのか、さっぱり分からない。だから、私は、今、自分が歯痒いんです。

私の周りには、そう、私が昔、昔、やってきたようなチャランポランな人間がたくさんいます。

でも、あいつらだって、私と同じ心の世界を持っているはずだ。この世界を覗けばよく分かる。自分は自分であって、自分でないような、そんな世界を、私は、少しだけ感じたような、そんな体験をしました。この体験は、一体何だったのだろうか。今、何かが、心の底から出てくるような気がするけれど、それも、私には、いまいち、よく分からないのです。」

この人は、チャランポランに生きてきたと語っていますが、おそらく、頭はいいと思います。

自分の人生哲学がきちんとあって、そして、世の中に向けて、自分の思うところを、歯に衣着せない語り口で、どんどん発信されてきたのではないかと思います。

そんな自分が、ある日、突然の出来事に遭遇しました。

生死の境を彷徨いながら、その間に、この人は、自分の意識の世界、つまり、形を持っている今の自分ではない自分の世界を、垣間見たのだと思います。

それは、自分だとも言えるし、そうではないのかもしれない。とにかく、そういう何か、自分の頭では計り知れない世界に触れたのではないでしょうか。

人生観が変わるほどのすごい体験と、自分では思っておられますが、その体験を、本当に自分のために活用していくには、まだまだかなりの時間が必要な気がします。

それは、この人もまた、今、目に映っている世界こそが、現実の世界だと信じているからです。

その中で、人間を考え、自分を思い、色々なことを考えようとしているから、本当にこの人が探し出したい世界に触れていくには、時間を要するでしょう。

しかし、意識の世界からの働きは、何一つ無駄なものはありません。

この人もまた自らを目覚めさせようと必死なのだ、必死に自分に自分が訴えたものが、あのような形となって、何か気付きを、促しを、自分に与えている、そのようなことを感じます。

この人が、何かのきっかけで、自分を生んでくれたお母さんのことを思い出し、そして、その母親を通して、自分を思うことがあれば、心の奥底に潜む思いが、どんどん出てくると思います。

それを自分の描きたい作品の題材にして、社会に物申していけば、おそらく、これまでとは違った作風になっていくのではないでしょう。

語り人C

ここでは、会話形式にしてみました。

「年は取りたくはないものです。年はいきたくない。醜くなつていく私を見るのが、とても辛いです。

私は、愚かなのかもしれませんが。年相応に、もっとかわいらしい私があったのかもしれませんが。

でも、私は、舞台を捨てることはできない。舞台で死ねば本望、そう、本当にそうですね。舞台で死ねたら、役者冥利につきます。舞台が私なんです。舞台がすべてなんです。

私は苦しい人生を歩いてきました。ああ、舞台は私の人生そのものです。私を見ているようです。だから、私は、舞台とともに死んでいけば本望だと思います。私の生涯は、舞台の灯が消えるとともに、閉じていくなんて、素晴らしいじゃないですか、これこそ、大名優だと思っています。」

「あなたは、本当にそうなのでしょうか。

あなたは、先ほど、私の人生は苦しかったと、おっしゃいました。その苦しみは、どのようなものであったのでしょうか。」

「思い出したくもない。思い出したくもない。私には、似つかわしくない。そのことを思い出したくもない。でも、しっかりと私の中にはあるのです。」

「はい、あなたの舞台に賭ける情熱は分かります。でも、私は、あなたのほうに思いを向けると、何とも言えない空しさを感じるのです。

凝り固まったあなたの世界を感じてしまいます。そして、そうじゃないはず、あなたの中は、そうじゃないって言っているような気がします。

あなたは、このまま死んでいく気なのでしょうか。

そうですね、あなたは、自分の死をとて恐れていますね。」

「ああ、私は醜い姿のままで死にたくない。私は、そう、舞台の上で死にたいというのは、綺麗な姿のままで、この世を去っていききたいからです。

綺麗な、綺麗なままで、私は、私のこの姿を人の心に残してほしい。そう、その思いから、私は、舞台で死ぬのが本望だと思っているのだと思います。

しかし、私は、まだまだ自分の人生に未練があります。死ぬのは恐ろしいです。死ぬのは怖いです。私がなくなる、はい、なくなるのが怖いんです。」

どうでしょうか。何千回と舞台を重ねてきて、どんなに名優の名をほしいままにしても、形のある自分にしがみついている心の中は苦しいです。

自分の心の中の苦しさを解き放つために、私達は生まれてきて、今の時間があります。

苦しい人生もそのためにありました。舞台人生は、その人の本来の人生ではありません。

現実の苦しい人生こそ、もっと真向かいになつて、取り組まなければならぬ舞台なのではなかったのでしょうか。

苦しい現実の時間の中で、自らを苦しみから解き放つことなく、やがて、また苦しみの中に戻っていくことは、大変残念なことだと思います。

どんなに舞台に賭ける情熱を賞賛されても、苦しい心の内はそのまま残ります。

そして、残った苦しい思いとともに、死んでいく苦しさ、辛さ、哀しさ、本当は、この人の心に響いてきているのではないのでしょうか。

しかし、この人もまた、その思いを素直に、そして、優しく受け止めていく手立てを知らないのです。

おそらく、この人の周囲にもそのような人はいないでしょう。誰も本当のことを知りません。

そういうことを思ってみれば、脚光を浴びた舞台であればあるほど、何か、その光はわびしく哀しい陽炎かげろうのような気がしてなりません。

# 語り人D

「私の心は、寂しい。心が寂しい。私が、あの人を追いつめていきました。あの人を追いつめていったんです。私の寂しさを、ぶつけていきました。はい、私は、とても寂しいです。歌は癒しと言いますが、私は、自分が歌

うことで、自分を癒しているとは思えません。

歌の世界に入っていけばいくほど、自分の心の中の苦しさが、自分に響いてきます。どうしようもないほどの苦しさを感じます。私は、その私自身を、あの人に、すべてぶつけてきました。鬼のような心でぶつけてきました。私の寂しさからでございました。

狂ったような私を、あの人は、悲しそうな目で見つめました。

私は、どうしてこんなに寂しいのだろうか、自分で自分が分からないくらい、寂しいときがございます。」

この人が歌う姿を見れば、パワフルに本当に舞台いっぱいを使って、歌っておられるようです。

今、狂いそうなくらい寂しいと語った自分とのギャップを、私は訊ねてみ

ました。

「はい、あれは、そう、私の仮の姿でございます。私は、ステージに立つと、自分でない自分を感じます。私の中から、私の心の底から突き上がってくるエネルギーに、私は、この肉体を動かしていくんです。

舞台いっぱいに動き回ります。声を限りに歌います。身体全体で歌います。私が私でないときでございます。そのステージを離れた瞬間、私は、この暗い、暗い心の世界に戻っていくのです。

そのギャップが、私には、どうしても分かりません。

ですが、そうですね。私は、私の中に、いつも何かがいるような、そんな気がしています。そう、あの、ステージいっぱいに動き回る私は、ひとりの私なのかもしれません。そして、このように暗く落ち込む私も、私なのかも

しれません。私は、何人もの私がいるのかなあと、ふと思っています。」

この人は、こんなふうに語ってくれました。

ギャップについては分からないと答えながら、自分の中に何人もの自分がいることは、感じておられるようです。

歌が自分にとって癒しとはならないことも語っていました。

寂しい思いで、狂おしいほど寂しい思いで歌ってこられたのだと思います。しかし、歌は捨て切れませんでした。歌が好き、そうかもしれません。いえ、歌わずにはおられなかったのではないのでしょうか。

歌うことを通して、この人は、色々なこと、色々なものを、感じてこられました。

そして、公私ともに支え合う人に巡り会ったけれど、結局は、歌の世界を

仲立ちにしては、互いの心の闇の部分を見つめ合うことはできなかったのです。

数々の名曲をヒットさせ、Dさんの世界は、作り上げられました。その世界は、絞り出すような声とともに、苦しい思いを切々と訴えてくると思います。

あなた、私の存在に気付いてください。

私は苦しいです。私は寂しいです。今、あなたに必死になって、訴えています。どうぞ、私のほうに心を向けてください。

歌詞を通して、メロディを通して、歌い手を通して、そんな思いが伝わってくるかもしれません。

苦しい私とは、一体誰なのでしょうか。

寂しい私とは、一体誰なのでしょうか。

私のほうに心を向けるとは、どういうことなのでしょうか。

## 語り人E

「私の身体は、今、不自由です。身体は不自由ですが、私の心からは、色々な思いが出てきます。

その中で、私は、身体の不自由な自分に対して、どうしようもない思いを感じるのが、とても苦しいです。

この身体さえ、もっと自由に動けば、私は、自分の思うところを、素晴らしい作品に残すことができただろうに。

私は、一体何のために生きてきたのか。今、何のために生きているのか。どうして、この病が、私に降りかかってきたのか。どれもこれも、私の中で、何ひとつ、満足な答えに出会えていません。」

精力的に活動してきた時間を止めて、そして、自分を振り返る時間を自分に用意されたEさんです。

ユニークな発想と饒舌<sup>じょうぜつ</sup>で、独自の世界を構築してきた自分が、よもや、こんな病に見舞われるとは、想定外のことだったと思います。

それを、自分の中で受け入れていくことの難しさを感じ、ジレンマを感じ、随分と苦しんでこられたということでしょう。しかし、人間、そういう状態になって初めて、自分の生きている意味を、自分の中で真剣に考え始めることもあります。そして、語っておられるように、考えても、考えても、満足

な答えに出会えないでしょう。

それでも、今の自分の立場の苦しさから、もっと自分の中に広がっている苦しい自分との出会いを、心待ちにしている自分もあつたことに気付くまで、ままならない状態は続いていくのではないのでしょうか。

そして、苦しみながらも、当事者もその周囲の人達も、何かに気付いていく、きつと何かに気付いていく、私は、そう思っています。

それで、私は、語ってみました。

「あなたには、献身的に尽くしてくれる家族があります。あなたは、恵まれていますね。」

すると、こんな返答がありました。

「はい、よくやってくれた、よくやってきている、そのような思いを感じているのは、確かです。しかし、私は、どれだけ、尽くされても、私の手となり足となり、家族の者が、どのように心を碎き、私に接してくれようか、私の中は、とても苦しいです。私は、私の中は、とても苦しい。そのことが、とても、辛いのです。

心の世界というのは、それぞれのものなんですね。私には私の世界がある。どれだけ、家族の者が私の手助けをしてくれても、私の心の領域まで踏み込むことはできない。私も然るべきだ。決して、それぞれの心の世界に踏み込むことはできない。

そのような、ジレンマの中で、私は、苦しい日々を過ごしています。私の心の中から上がってくる思いは、とても苦しいことを感じます。

何が苦しいのか、分かりません。ただ、私は、自分に対して、色々と質問

をしてみたけれど、何ひとつ、答えが返ってこない。それが、とても苦しいのかもしれない。」

依然として、苦しさを訴えてくるけれども、その中で、それぞれの心の世界に踏み込むことはできないということを、Eさんは語られました。

その通りだと思います。

確かに、真実の世界はひとつであり、その世界には、あの人、この人という垣根はありません。

しかし、その真実の世界をそれぞれが、それぞれの心で感じられるようになるまでは、その垣根は消えることはありません。

本来は、ひとつの世界にある私達なのに、互いの心の中に、それぞれが、これまでの転生の中で、営々と築き上げてきた世界が、大きく膨らんでいる

のです。

その世界しか知らないEさんにとっては、自分の心の領域まで踏み込んでくれるな、私もお前達の心の世界には踏み込む思いはない、と頑なになっている自分があって、それが苦しいと感じておられるのだと思います。

頑なな自分を解きほぐすものは、一体何でしょうか。

語り人F

Fさんに訊いてみました。

「あなたは、幅広い活動をされてこられた人ですね。そのあなたに、お尋ねします。あなたは、今、幸せでしょうか。」

「はい、私は、長く生き過ぎました。

たくさんの人達と出会い、色々な事柄に接してきました。私自身も、様々な活動を通して、この人生を過ごしてきました。

はい、しかし、今、幸せでしょうかと、真っ直ぐに問いかれました。

私は、返事ができません。

世間様から見れば、私は、一応の成功者だと思っています。

俳優としても、私が演じる役柄を通して、皆さんの心の中に残っていると  
思います。歌も歌います。詩も書きます。曲もつけます。そして、私は、文  
章も認め<sup>した</sup>ました。

それは、私自身思うに、私は、自分というものを探していたのでしょうか。

そういうことを通して、私は、何かしら今の私でない、何と言いますかね、

それを感じたかったのかもしれませんが。

そういう意味において、私は、いまだ、自分の満足のいく人生を歩んでおりません。ということは、私は、幸せでないということでしょうか。

私は、そのように思います。しかし、私は、長く生き過ぎました。今は、ただ、時の過ぎていくのを、ぼんやりと思うだけです。」

今は、静かに死ぬ時を待っている、そのような状態だと思います。人生体験は豊富でしょう。豊かな才能にも恵まれたようです。おそらく、Fさん自身は、いい人生でしたと死んでいかれると思います。

それは、決して嘘偽りではないでしょう。

しかし、私は、今、ここで語っていただいた思いというもののほうこそが、Fさんの偽らざる本音だと思うのです。

そして、Fさんもまた、自分の肉体を持っている時間の中で、「なぜ、自分は生まれてきたのか」「何のためにこれまでの時間があつたのか」、それらについて、自分の中で解答が出せないまま、その肉体を置いていかざるを得ないと思います。

あなたは、今、幸せでしょうか。

豊かな人生体験、豊かな才能、今ある人もない人も、自分に聞いてください。

そして、今あなた自身、答えられますか。

あなたは、なぜ、生まれてきたのでしょうか。

ところで、あなたは、自分の気持ちを、必要以上に押し殺して生活なさつ

ていませんか。

完璧を求める思いはどうでしょうか。

それが高じてくれば、結局、自分を追い詰める結果となってしまいます。  
Gさんも、そうだったのかもしれませんが。

#### 語り人G

「あなたは、心の病にかかれたそうですね。今は、それを克服されて、普通の生活を送っておられると思いますが、あなたの思いを聞かせてください。」

「私、Gは健在なり、今、私は、そのように思っています。苦しかった。苦しかった

た日々を送ってきました。私は、そう、とても苦しかったです。自分が崩れていくのが、たまらなく苦しかった。

私は、なぜ、あの病気になったのか分かるんですよ。私の心の中は……。

はい、これだけは、口が裂けても言いたくありません。

ああ、これだけ、私の心の中は、すさまじい思いを出してきたのか。今、私は、あの当時を振り返り、自分の心も身体も、切り刻んできた思いを感じ、ぞっとしています。

ああ、でも、私は、まだまだこの苦しい心が、私の中に眠っていることを感じます。

どこまでも、私は、仮面をかぶらなければなりません。それが私には、たまらなく苦しい。心の中にある思いを、全部吐き出していきたいと思ったことが、何度もありました。

でも、それをする、私の家族すべてが、今の生活を失います。私は、今の生活を失いたくなかった。

どれだけ自分が苦しかろうが、私は、やはり、仮面をかぶって、かぶって、かぶってききました。

そして、そう、何もかも、作られた中で生活をしてきたのです。私が、精神的に、おかしくなるのは当たり前でした。大きな病を得るのは、当たり前でした。

私の苦しみは、そういうことがあっても、自分の本当の思いを、決して私の中から出せないということにありました。すべては、作られた世界の中で、私は、どこまでも、自分を偽っていくんです。」

なぜ、ここまで自分を押し隠していくのでしょうか。

もし、この人が、次のようなことを学習する機会があったなら、もう少し、自分自身軽くなっていたのではないだろうかと思います。

「私達人間は、みんな真っ黒な思いを抱えて生まれてきました。心に溜め込んできた思いは、あなたも、どこかで感じておられるように、みんなすさまじいのです。

自分を偽って生きていこうとする思いは、すさまじいエネルギーとなって、あなた自身を、そして、あなたが失いたくなくて、必死で守ろうとしている家族、あなたの最愛の人達を、破壊していきます。

どうぞ、ご自分に優しくなっていてください。

崩れていく自分に恐怖するのではなくて、崩れていく自分を、ありがたうで受け止められる優しさを、周りの出来事から、そして周りの人達から、学んでいってください。」

自分を解き放つために、今という時間があり、今の環境があるのではない  
でしょうか。

あなたが、本当に守るべきもの、大切にすべきものは、一体何なのでしょう  
か。

語り人H

一時期、マスコミを賑わせたこの人にも思いを向けてみました。そして、  
訊ねてみました。

「私は、巻き返しを狙っています。私がやってきたことは、法に触れていた

かもしれない。でも私は、自分のこの力をまだまだ試してみたい。そんな思  
いでいます。金に狂ってきた私だけど、金に狂っているやつなんて、この世  
にごまんといる。もう一度、私は、巻き返しを狙います。今は、色々な勉強  
をして、この頭をもっと……。法律に詳しいそういうふうな分野を、もっと  
自分の中で築いていきたい。私は、今、そう思っています。そういう思いで、  
私の時間は流れています。」

「あなたの心の中はどのようなのでしょうか。」

あなたはそれでいいかもしれません。それがあなたのエネルギーとなって、  
あなた自身を突き動かしてきたのでしょうか。あなたの心の中は、自分の思い  
を遂げようとする思いで、充滿していると思います。それでは、もう少し、  
あなたの心の中の奥を覗いてみましょうか。」

「私は、そうやって、私は、私を追い詰めてきました。どんな時も私は、私を追い詰めてきた。様々な方法で自分自身を追い詰めてきた。これでもか、これでもかと私は、地獄を覗いてきました。」

今は金です。金こそ力なり。金を手にするものは、この世を制する。私は、そのような思いでずっときました。そう、お金を持っているやつはすごいんですよ。お金のパワーはすごい。どんなことだって、みんなお金にひれ伏すんですよ。私は、その人の裏側というものを見してきました。私は、まだまだ若いけれど、随分と人の裏側を見してきました。お金にへりくだっていく姿を、私は、思う存分見てきた。そう、金を持たなければダメだ。この世を生きるには、金を持たなければダメだ。そんな思いが自分の中から聞こえてきます。

.....

はい、はい、私は、そうじゃないんです。そうじゃないんです。

この私は、苦しい、苦しい、苦しいって、ただあなたに伝えている。私は、寂しい、寂しい、寂しくて暗くて冷たくて、そんな中にいる。

私は、あなたに助けを求めています。

あなたの苦しみ、それは、私の苦しみですが、あなたは、人も羨むような生活の中で、自分の心の苦しさを解消できましたか。私は、ずっとずっと、あなたの中から、苦しい、苦しいって伝えていました。

どれだけ贅沢をしようが、どれだけ人があなたを持ち上げようとも、あなたは、あなたの心は苦しいって、そう叫んでいたはず。

私は、そういうことでは、騙されないからです。

そんなものは要らない。私は、そんなものは要らない。

あなたは、おいしいものを食べて、おいしいお酒を飲んで、みんなとワイ

ワイガヤガヤ騒いで、一日いい気分るときもたくさんあって、それで、自分の人生は、満足だったかもしれない。

でも、私は、そういうものでは、誤魔化することができない。そんな中にいます。

私は、あなた自身です。私は、あなたなんですよ。それに気付いてほしい。私に心を向けてください。

私は、おいしい食事も、立派な部屋も、可愛い彼女も要りません。そんなものは、私には要らない。

私は、私が、なぜこんなに冷たくて暗くて寂しいところにいるのか、教えてほしいんです。そして、ここから出してほしいんです。あなたに、ずっとずっと、これからも訴えていきます。あなたに助けを求めています。」

例えば、今語っていた中には、「私」もいれば「あなた」もあります。

この「私」と「あなた」の関係は、どのような関係でしょうか。

自分の欲を満たそうとする「あなた」に「私」は、自分のほうに心に向けてほしいと訴えています。

「私」もあなたなら、「あなた」もあなた、こう言えば、少しお分かりでしょうか。

このような心の世界は、決してHさんだけではありません。私達は、みんな、自分のことを知らないのです。

私達が知っている自分というものは、ほんの一部分でしかありません。

そして、さらに付け加えるならば、心の世界というものもまた、形の世界を本物としている人間が知り得る世界は、本当にちつぽけな世界なのです。

Hさんの思いを聞いていて、少しコメントをしたくなりました。

『今度、『あなた』のそのエネルギーを止めるものは、何でしょうか。『あなた』は、欲へ欲へと突っ走る。それを止めるものは、何でしょうか。

『あなた』は、自分のその頭と才能と、そのすべてを持って、これから、まだまだ自分を陽の当たるところへ、押し上げようと努力されていくでしょう。でも、それはまた、どこかで頓挫とんざします。

『あなた』の身体が壊れてしまうか、精神的におかしくなるか、いずれ『あなた』は、その大きな、大きな、苦しみの中で、『あなた』自身を見つめざるを得ない時がやってきます。

その時、『あなた』は、『私』の訴えていることに素直になってくれればいいなあ、そして、『私』を見つめてくれたらいいなあと思います。

『あなた』が今そこにあるのは、誰がいたからなのでしょうか。

『あなた』は、どなたから生まれてきましたか。

こういうことを、『あなた』自身が考えるきっかけというか、チャンスは、巡ってくるでしょう。いいえ、そういう時間をきつと『あなた』は持つようになるだろうと思います。」

小説や物語、アニメの世界で、様々な活動をしている人達にも訊ねてみましょう。

まず、小説などの世界を通して、人生を思い、人間を探索し、その心の世界を描いてきたI、J、Kさん達は、果たして、どのように語ってくるでしょうか。

語り人―

「私の心の中にあるものは、何でしょうか。」

私は、男と女の世界を描いてきました。この世界の中で、己の欲を見てまわりました。

私の心の中にある情欲の思い、その思いを、私は、小説に書き留めました。ですが、私の心の中にあるこの思いは、まだまだ、くすぶり続けております。」

Iさんに、次のようなことを訊ねてみました。

「あなたの信じるものは、何ですか。」

あなたは、本当のことをご存じでしょうか。」

「真実とは、何でしょうか。私は、本当のことが、心に見えておりません。その私が、大勢の皆さんの前で、人の心を説いております。何ともはや、お粗末な私を感じています。しかし、私は、もうすでに作られた像の中に納まつておかねばなりません。

今更、私には、何も分からない、何も分からないと言えたものではございません。

『あなたにとって、本当のことは何でしょうか。真実の世界をご存じでしょうか』。私は、そのような質問に対して、何ひとつ答えることはできません。」

再び、Iさんに訊ねてみました。

「あなたが、その肉体を置いて戻る世界は、どのような世界だと、あなた自身、感じておられますか。」

「はい、私は、そう、私の帰る世界は、真つ暗な世界でございます。」

今も、真つ暗な世界にいることを、感じています。

このことが、私の真実でしょう。そう、たぶん、私の真実は、この暗黒の世界、それを、あなたは、私に伝えてくれているのですね。」

「あなた自身、何も分かっていないと知りながら、人の前に立って、何を語っているのでしょうか。そのあなた自身、苦しみは心に増すだけではないでしょうか。」

「私だけではございません。いかにも分かったふうを装って、人様の前で、説法をされている方は、私一人ではございません。

みんな、何も分からずに、得々と、自分を表しているではありませんか。

そうですね、私も、その一人だと思えます。今更、私には、何も分かつてはおりませんとは、言えないんですよ。

私は、このままで、このままで死なせてください。

私は、すべてを悟った者として、この世から、消えていきたいです。」

すべてを悟った者として、自分を終わらせたい、それがIさんの願いのようです。

しかし、そうはいきません。私達は、自分を終わらせることはできません。肉体は朽ち果て、消えていきます。ですが、形がない私達は、消えること

はありません。しかも、自分の中に広がっていた苦しみはそのままです。自分がその苦しみに気付くまで、苦しみは永遠に続きます。

それが1+2+3の世界にある私達の真実です。

そのことに気付くまで、自分が作ってきた苦しみの中で、自ら苦しんでいるだけなのです。

Iさんも、早くそのことに気付いていかれたらと、私は思いますが、Iさん自身も語られたように、もうすでに作られたイメージを崩していくことは、どうやら今世は難しいようです。

語り人」

「私は、自分の文筆活動を通して、世の中に訴えてきたことがございました。

Ｊという自分の世界を、皆様に知ってほしい、そのように思っていました。」

では、あなたにお訊ねします。

「あなたは、あなたのこれから先の時間、そして、あなたが死んでからの時間、それをどのように思っていますか。」

「私の時間は、はい、この今の時間です。命の果てるまで、私は、文筆活動が続けてまいります。命がなくなつて、私というものがなくなつて、私は、この世界を離れていきます。Ｊという私の世界を広く、広く、後世に残したい。私の思いを、一人でも多くの人に知っていただきたい。そう思つて、私は、たくさんの作品を、この世に残しました。」

それは、私、Jの足跡です。Jです。私は、この肉体を終えるまで、J、私なのです。

その先？ その先は、私には、分かりません。

命がなくなれば、私の身体は、荼毘<sup>だび</sup>に付される。その後、私は、どこへ行くのでしょうか。

今このように語っている私は、なくなってしまう。

はい、そう思うと、底なしの恐怖を感じます。いつまでも、この時間に、私は、ああ、そう、しがみついていたいなあ。しがみつくというのは、適当な言葉じゃないけれど、やはり、私は、死んでいくのが、とても恐怖でございます。」

語り人K

「本に書いた内容は、私の理想とするところです。私自身は、そこには至っていません。私は、自分の理想とするところを記したまでででございます。本当にそのような夫婦であれば、私もよかったのになあと、今、思っています。

私はと言えば、私は、それどころではございません。

ですが、私は、とても自分が立派だと思い続けてきました。私の中で、ひとつの世界がありました。夫には、到底理解できない世界でした。

私は、私の世界の中で、ああ、だから小説や、その他の書き物の中で、私は私を広げていきました。それは楽しい作業です。

誰にも邪魔されない私の世界がありました。私は、そこで色々な人間の姿を描いてきました。

人間は愚かだけれど、どこか、可愛いところがあり、どこか、憎めないと

ころがあると思っています。

だから、私は、本当に人間の心の奥深くをもっともっと描きたかったのです。しかし、私は、私自身の心の奥底というものを、知りません。

確かに、私は、色々な人間社会を、そして、人間の心の中を描いてきましたが、私は、はてさて、自分の心の中はと言いますと、自分の心の中を、覗いてみたことはありません。私は、今、このように語っています。

何かしら、あなたの素直な思いを語ってごらんという思いが、伝わってきます。」

Kさんが語った中に、人間の心の奥深くという表現がありました。

Kさんに、今のKという名前、その他、Kさんを評価している諸々を外して、あなた自身を語ってくださいと言ってみても、Kさんのように、自分の心の

中を覗いてみたことがない人は、自分を語るなどできないのです。

上辺の心なら語ることはできるでしょう。ましてや、作家であれば、様々な人間模様を描いてきたのです。そこに蠢く人間の心の中を描写するテクニクには長けています。

しかし、そこから先は、どうでしょうか。

例えば、死を目の前にしたときの自分の思い、その思いに触れていったとき、図らずも、自分の心の奥底にある思いに驚くかもしれません。

人はみんな、いずれその肉体を終わっていく時が来ます。

あなたが、その肉体を終わっていく世界は、どのような世界なのでしょう。

私は、そのことを言っています。

それがあなたの意識の世界です。そして、それが、実は、今現在のあなた自身です。

こう言っても、あなたには、馴染みがないでしょう。

あなたの意識の世界？ 私の意識の世界？ そういうことを初めて聞かれました。

JさんもKさんも、今はまだ人間を形としてとらえています。それが、この人達の根本です。

それでは、本当の人間の心は、描けないのです。

人間の本当の姿は、意識だからです。

ここで、少し趣きを変えてみましょう。

ご自分のアニメ作品の中で、独自の世界を広げておられるIさんに、その世界を、少し語っていただくことにしました。

語り人」

「はい、私は、神の存在を信じています。人間の力では及ばない不思議な世界を、私は、感じています。」

人間にはない何か不思議な力、その力を得て、私は、たくさんの作品を通して、神の存在を世間の人に伝えました。

自分の中に神、神の世界がある、私は、それを感じます。  
不思議な力を、目に見えない世界を、私は、感じるのです。」

「あなたの中に神があると、あなたは、おっしゃっています。では、今、語っておられるあなたは何なのでしょうか。」

神と、あなたの関係を、どのように考えておられますか。」

「はい、私は人間です。神は神です。私は、神というものを人間とは別個に想像しています。

神は、偉大なるもの、神は、摩訶不思議な世界のもの、恐れ多いもの、しかし、人類に知恵と勇気と幸せと恵みをもたらすもの。私は、そのように信じています。

私は、神の存在を信じています。

だから、自分の作品を通して、人間の色々な姿を描きながら、本当は、人間は素晴らしい神の中で見守られて、そして、強くたくましく幸せに生きていくのだということを、伝えたかったのです。

今は、混沌とした世界が広がっています。どちらを見ても、社会は狂っていると言ってもいいでしょう。私は、その人間達の心の奥底にあるものを、

どうにかして、何とかして、世間の人に知ってほしいという思いでいます。しかし、神と私の関係はと、訊ねられたとき、私は人間です、神は神です、という答えが、自分の心の中に返ってきます。」

Ｌさんが語ってきた中に、神、神の存在、神の世界という言葉がありました。この神というのも、私達人間は、自分達の欲の思いから、大きく歪めてしまったのです。

私達は、形の世界に生きているわけではありません。

今、私達は、肉体という形を持っていますが、私達の本当の姿は、目に見えないのです。

そのことを、Ｌさんの言葉で言うならば、神ということなのです。

もっとも、一般的には、Ｌさんが語られたように、神というものは、人間

とは別個の存在であり、恐れ多いもの、偉大なる存在ということになっていくと思います。

あなたも、Lさんと同じように、「私は人間です。そして、神は神です」と思っているのではないのでしょうか。

確かに、Lさんは、自分の中に神の世界があることを感じているのでしょうか。

しかし、そのLさんが感じている神とは、一体何なのでしょう。

根本を思い出してください。

Lさんは、自分というものをどのようにとらえているのか、つまり、人間を形あるものとしてとらえているのか、そうではないのかというところで、神のとらえ方が、全く違ってくるのです。

また、Lさんも感じているように、確かに、今の社会は狂っています。人

間の心は狂っています。

それは、私達人間が、自分達の本当の姿を見失っていった結果です。本当の自分を見失った人間は、狂った状態です。そして、根源的に寂しいのです。その寂しさを埋めるために、人間は、色々なものを求めます。その中で最大の過ちが神を求めたことです。

求めても、求めても、根源的な寂しさを解消できるはずがないのです。だから、さらに、人間は狂い続けていきます。

狂ったエネルギーが、様々な現象を引き起こしていきます。それが現代社会に、はつきりと現れているのです。

本当の自分を見失ってきた人間は、本当の自分を取り戻すまで、狂い続け、苦しみ続けます。

本当の自分を見失った状態では、どんなに何をして、根源的な寂しさか

ら、抜け出すことはできないのです。たとえば、巨万の富を得ても、自分の中の根源的な寂しさはそのままです。

本当の自分を見失い、彷徨<sup>さまよ</sup>い続けてきた私達人間は、その自分を取り戻すため、生まれてきます。

そして、まず、自分達が狂ってきたことを知らなければなりません。

人間の欲の思いが作り上げてきた神の世界を、自分自身で崩していかなければならないのです。

Lさんが感じている神の世界もまた、Lさん自身が崩していかなければならないのです。

本当の自分を知らずに、今、存在しているLさんの本当の仕事は、自分の解放なのです。

そして、その道は険しいです。さらに、その険しさは増してくるだろうと

思います。

後のほうで、また書いてみようと思いますが、それは、私達は、「意識の流れ」という流れの中にあるからです。

私達は、狂つてきた自分を感じていく過程にあり、その中から自分を解き放していかねばならないのです。

ひとまず、ここではこのように書いておきます。

ところで、あなたは、霊能とか、霊能者という言葉が聞かれたことがありますか。

根源的に寂しい人間達は、その寂しさを、パワーを得ることによって、解消しようとしています。

また、複雑な社会の仕組みや、人間関係などから、心に様々なストレスを

感じて、その解消あるいは解決方法を、パワーに求めることも往々にしてあります。

占いやまじない、人生相談を、簡単に考えないことです。

ある霊能者に語っていただきました。その問答です。

#### 語り人M

「人は私を、すごい霊能の持ち主だと評価します。

私も、その通りだと、自分自身思っております。ああ、しかし、私の心の中にあるものは、そう、恐怖の心でございます。

私は、自分自身、心で感じるだけに、常に、その存在を恐怖しております。私自身を導いてくれるもの、守ってくれるもの、そう思う反面、私は、いつも、

危険にさらされている自分自身をも感じております。

そう、私は、自分の耳に聞こえてくる声に従うんです。それは、恐怖からです。

お前は、堂々とすればいい。私が、お前にはついていく。私が、すべてを見通しているのだ。お前は、その口を動かすだけでいい。お前には、私がついている。その代わり、私を裏切るということをするな。私を敬え。私を上に見ろ。お前の口を通し、私がすべてを導いていつてやる。私の力を、お前こそ、知っているだろう。私の言う通りにすればいい。私の言う通りに、言葉を発すればいいんだ。あとは、何もしなくても、お前の今の地位は安泰だ。どこをどう話せばいいのか、私が教えてやる。」

「Mさん、あなたを導く正体を、あなたはご存じでしょうか。あなたは、自

分の指導霊、そのように思われておりますが、その実体をあなたは、ご存じなのでしょうか。」

「はい、私は何も知りません。ただ、私の耳に聞こえてくるもの、それがあ  
るのです。私には、昔から、そういう力がありました。

不思議でした。自分でも不思議でした。自分の口から、言葉を発するたびに、  
そう、相手の人は驚きます。それを、私は得意としてきました。いつの間にか、  
私は、それを、自分の特技だとしてきたんです。

ああ、でも、私は、本当は、とても恐怖の思いを感じています。

突然、自分の中が、狂い出しそうな、何を語るか分からないような、そして、  
自分で自分の首を絞めているような、そういう時があるのです。

.....

私は、自分が特別だとする思いを、心から離すことができません。そう、言うてくるのです。

『お前の未来は安泰だ。お前の人生は、輝かしい人生だ。私がついているじゃないか。私の言う通りにすればいいんだ。お前には、お金が入る。それで、輝かしい人生が送れるではないか。名声も手に入るだろう。お前の名前を世間に売ってやる。世間のやつらは、みんな、お前を目指してやってくるだろう。みんなの望むことを、お前が言えればいい。その秘訣を、私がお前の中から、教えてやる。そう、お前は、私の言う通りに動けばいい。』

その思いが、時には、とても私を威圧してくるのを感じます。

夜中にふと目が覚め、私は、それを感じるときがございます。」

「はい、Mさん、あなたは、自分の霊能を誇っておられますが、その霊能を

誇る思いを、心で感じていってください。

あなたの恐怖の思いが、ずっとずっと、その心の奥底にあります。それが、  
霊能を誇るあなたの思いでございます。

口から出す言葉によって、人の人生を左右する。そのことが、どれだけの  
罪であるのか、私は、あなたにお伝えしたいです。」

人は、誰しも幸せを求めます。幸せな人生、輝かしい人生を求めています。  
そのお手伝いにと、Mさんは、その口を通して語られているかもしれませ  
んが、そのエネルギーたるや、すごいエネルギーなのです。

Mさんは、そのエネルギーを牛耳っているMさん自身の奥底にあるエネル  
ギーをご存じありません。

もし、Mさんが、本当に心が敏感で、そちらのほうに、どんどん心に向け

ていかれたなら、間違いなく狂っていくでしょう。

今、Mさんは、物質的にも恵まれていると思います。

しかし、いずれ、その自分の奥底にあるエネルギーで自分を苦しめていく、その道筋にあると私は思います。

世に言う霊能者というのは、大抵はMさんのような状態だと思います。自分が操られていることが分からないのです。操られているといっても、操っているのは自分自身。もうこうなると、何が何だか分からなくなってくるでしょう。

それほど、本当は、その人達の意識の世界は、混沌としているのです。

それを外側の飾り、例えば、肩書き、容姿などで、綺麗に立派に誤魔化しているだけです。

その人達の意識の世界を感じていけば、底なしに沈んでいく暗黒の世界という表現になるかと思います。

以下、Mさんに向けて、私の思いを語ってみました。

人を救うのが、あなたの仕事ではありません。

あなたは、あなたのその奥底にある恐怖の思いと、真正面から向き合い、そして、その思いを、自分の中で解放していくこと、それがあなたの今生生まれてきた意味でございます。

あなたが、生まれながらにして心が敏感であり、霊能力というものを身につけていたとするならば、それは、あなたの心に、少しでも、本当の温もりと優しさを伝えるために使うべきものなのです。それを、あなたは間違っ

使ってしまった。

しかし、今、あなたに、このようにお伝えしても、あなたの心は、これを素直に受け入れられないでしょう。

それほど、あなたは、もう何もかも分からない状態なのです。

私からすれば、とても深刻な状態です。

やがて来るあなたの結末が、私には感じられます。

あなたがあなたを牛耳っているあなた自身のエネルギーに恐怖する心を、その心をずっと持ち続けたまま、あなたは、今世も、その肉体をいただきました。そして、これからも、何度も、何度も、あなた自身が、気付いていかれるまで、肉体を持つということでしょう。

しかし、あなたが生まれてくる社会はどうでしょうか。とても、とても、大変な時代に、何度も、何度も、転生をしてこられるでしょう。

例えば……、思いを聞いてみてください

それほど、あなた自身の心に培ってきたエネルギーは、すごいということです。

あなたには、ご自分の霊能を誇る思いがありますが、本当は、その思いは、とても、ちっぽけなものなのです。それどころか、それを素晴らしいとする限り、あなたは、自らを地獄に陥れていくのです。そのことを、自分自身に気付かせるために、これからの転生がごさいます。



人間は、エネルギーの塊

これまで、様々な分野で活躍されてこられた人達に、今の心境を語っていただきました。何かあなたの参考になればと思います。

さて、私達が、心境を語ると言いますが、それは、ほんの表面的な思いであって、しかも、自分にとつて、あまり語りたくない思いや、自分の都合の悪い思いは、そのままストレートには語りません。

そして、その部分は、自分自身が語らなかつたら、誰にも分からないものだと思っています。

しかし、人間はみんな、絶えず、自分からエネルギーを出しています。

言ってみれば、人間はエネルギーの塊なのです。

どうですか。そう言われてみれば、思い当たるところがあるのではないのでしょうか。ふとした時に、自分のエネルギーを感じませんか。

例えば、精力的に活動する自分を体験したり、自分から何かが萎<sup>な</sup>えていく

ような、力が抜けていくような自分を感じたりすることは、これまでになかったでしょうか。

何かに突き動かされていく自分を感じたことはなかったでしょうか。

あるいは、頭で考えるよりも、心で思うよりも、その前に自分の身体が動いていたとか、そのようなことを、経験されたかもしれません。

人間は、エネルギーの塊。

そして、そのエネルギーを、色々なところから確認していくために、今の時間がある。

これから、このような視点から、自分と自分の周りを見ていきませんか。  
本当のことを知らずに生きている人達の意識は、とても苦しいです。

しかし、上辺の形だけを見ていては、その苦しみは分からないでしょう。

例えば、ノーベル賞や金メダル、勲章というものは、この世的には、立派なものかもしれませんが。誰でも、簡単に手に入れることはあり得ないでしょう。

それを取得するには、様々なご苦労が、それぞれにあつたと思います。それぞれ取得に至る大変な道があつたはずですよ。

しかし、私達の本来の道は、ノーベル賞や金メダル、勲章を取得する道ではないのです。

そういうものを取得したから、本当のことが分かるということではありません。

本来、私達が歩んでいく道は、自分達のエネルギーを知っていく道です。

その過程において、ノーベル賞や金メダル、勲章というものがあるだけで、

その取得が本来の道のゴールではないと言ったなら、あなたは、どのように  
思いますか。

人間は、そういうものを取得するために生まれてくるのではない。それは  
それで、ひとつの考え方に過ぎないというご意見でしょうか。

ここところが、最大のポイントでしょう。

そして、再び浮上してくる問いがあります。

あなたは、何のために生まれてくるのでしょうか。

あなたは、自分が本当にするべきことは、何だと思っていますか。

あなたは、このまま死んでいいのでしょうか。



今、生きることに失望し、  
自ら命を絶とうとしている人はいませんか

今、生きることに失望し、自ら命を絶とうとしている人はいませんか。

あなたの中の苦しみは、死んでなくなるのでしょうか。

自ら命を絶てば、今の苦しみ、辛さ、哀しみのどん底から、自分自身逃げ出すことができるのでしょうか。

今、自分が窮地に陥り、もう本当に生きていても仕方がないと、そのように思っているあなた、死を選ぶ前に、今一度、あなたを生んでくださったお母さんのことを思ってみてください。

世間の風は厳しいかもしれません。世間の荒波は、あなたにとって過酷かもしれません。

でも、今、あなたが自ら生きようとする時間を止める前に、どうぞ、あなたを生んでくださったお母さんを思ってください。

あなたは、いつそ自分の命を絶てば、今の苦しみから逃れられる、何もか

も放り出して、今の煩わしさや今の生活の地獄から抜け出ることができる、ここで人生、ジ・エンドにできる、いいえ、そうしたい、そのように思っておられるのでしょうか。

私は、一般論は言いません。

例えば、死ぬ気でやれば、何だってできるじゃないか、あなたは自分の命を絶てばいいかもしれないが、あとに残された家族はどうなるのかと、そのように論ず<sup>さ</sup>気ありません。

そんなことよりも、やむを得なく最後の手段として、自ら死を選ぶ人達のものに対して、どんな事情があるにせよ、自ら死を選ぶことは、絶対に間違っているということを言いたいのです。

ましてや、親が子供を道連れにしたりすることなど、本当に親の身勝手な行為だと、私は言いたいのです。

あとに残す子供が不憫、親の心情としては、一応、理解できます。

しかし、それは、一個人の歪んだ思いにしか過ぎないのです。

子供は親の持ち物でもないし、親だからといって、子供の生きていく時間を摘み取っていいはずがないからです。

そして、このことは、今、自ら死を選ぼうとしている人にも言えることです。

自分が生きていく時間を、自分で摘み取っていいはずはありません。

あなたが自らの命を絶って、今の苦しみ、地獄の生活から自分を抜け出すことができると思っていること、もうそこで、自ら幕引きができると思っていること自体が、間違いなのです。

あなたは、自分の時間に限りがあると思っています。つまり、死ねば、もう今の自分はなくなってしまう、もうそこで自分は途切れてしまうと思っているのでしょうか。

だから、その時間を絶とうとしています。

また生まれ変わることがあったとしても、それは今の自分とは、全く別の時間が始まる。今の苦しみ、悩み、辛さ、そこから解放されて、また次の人生が待っている。人生をリセットして、さあ最初からやり直そう。そのように思っ、今の時間を立ち切ろうとしています。

しかし、そうではありません。あなたの時間は永遠です。あなたは、限りなく続いています。

たとえ、ここで、自らの命を絶つても、あなたの時間は絶つことはできないのです。

そう、あなた自身、死ぬことはないのです。

あなたは死ぬ。つまり、あなたはそこで終わると思っています。

しかし、あなたは死なない。つまり、あなたはそこで終わらないのです。

あなたは、そこで終わらないから、あなたの中の苦しみ、哀しみ、辛さ、底知れぬ恐怖、底知れぬ寂しさ、そのような様々な思いは、あなたの中からなくなりません。あなたの中にしっかりとあります。

だから、あなたは、その色々な暗い、暗い思いを全部抱えて、また、生まれてくるのです。

次に、生まれ変わっても、その思いを全部抱えて肉体を持つてくるのです。そして、生まれてから、段々時間が経つにつれて、そのあなたが抱え持ってきた色々な暗い、暗い思いが、様々な形となって、あなたの目の前に広がっていきます。

とすれば、その人生の時間と、今、あなたが立ち切ろうとしている時間と、何ら変わることはないではないですか。

そうやって、あなたの目の前に再び、苦しみが広がっていったとき、あな

たは、また自分を絶とうとするのでしょうか。

いいえ、そうではない。今度、生まれ変わったら、もっと楽しい、もっと裕福な、もっと素晴らしい人生が待っているかもしれない。その可能性はあるだろう。だったら、こんな辛い人生は、ここで終わりたい。そういう言い分はあるかもしれません。

しかし、私は、それは違いますと言うしかありません。

その根拠は、肉体は朽ち果てても、あなた自身は存在するという事実です。そして、あなた自身が存在するということは、あなたの中にある苦しみもまた、そのままそこに存在しているという事実です。

何度生まれ変わってきても、あなたの心の苦しさは解消されない。その根本的な心の底の、底の苦しさを、自分自身で解消しない限り、その苦しさは、つまり地獄の世界は、あなたの中で、ずっと続いていく。これが事実です。

とにかく、今、自分自身の命を絶とうとしている方、安易にその方法を選ばないでください。

その前に、あなたの中のたくさんのあなたの声を聞いていくことが大切です。

確かに、その中には、死ね、死ねばもつと楽になる、死ねば、お前はもつと楽になる。そうやって、あなたに促してくる声、思いがあつて、そういうものが、あなたに届くかもしれません。

いいえ、人は大抵、そのような心の声に吸い寄せられるように、自ら命を絶っていくのだと思います。

それは、過去において、自ら命を絶ったときの自分の声、思いだと考えていただいてもいいかと思えます。

そのような過去の自分自身が、自分の中にしっかりとあるということを、

少しでも、今、感じていつてほしいのです。

どうぞ、お母さんを思ってください。

大人になったあなたではなく、あなたが、お母さんから生まれて、まだ一歳にまだならない、そう、ゼロ歳の時、あなたがお母さんの腕に抱かれ、お母さんのおっぱいを無心に吸っていたゼロ歳の時のあなたを思い出してください。

そんな遠い昔のことは思い出せない、そんなこと、思い出せるのか、バカなことを言うな、と言われるかもしれません。

しかし、思い出せるのです。

安らいでいたあなたを、あなたは知っています。

そのあなたがお母さんから伝えられた思いがあります。

「どうぞ、しっかりとこれからあなたの時間の中で、自分をしっかりと見つめていてください。

私があるを生んだのは、あなたがあなた自身を見つめてほしいからです。

あなたは、どうぞ、私に肉体をくださいと強く望んできたのです。

あなた自身、自分を見つめたい、どんなに苦しいことがあっても、どんなに辛いことがあっても、人生ままならないときであっても、自分自身を見つめていきたい、今度こそ自分を裏切りたくない、その思いから、私に生んでくださいと、あなたは、言ってきたのです。

もちろん、私自身も愚かな母親でございます。

ただ、私は、今、あなたのその必死な思いに応え、あなたをこの世に産み落としただけです。

その私の思いを、どうぞ、あなたの心で感じていてってください。」

そうやって、あなたは、母の意識から、ゼロ歳の時、そつと背中を押し出していただきました。そのお母さんの思いに触れていってくださいと申し上げています。

耳に聞こえること、目に映ることの中には、苦しい悲しい辛いこと、それは多いでしょう。

しかし、ふうつと目を閉じて、お母さんと語り合っていたあなたを思い出してってください。

色々な事情で、自らの命を絶つ人の数が増えていくこれからの時代です。

その人達のほうに思いを向けるとき、自分というものを知らずにきたこと、つまり、無知だということが、どれだけの哀しみ、そして、暗い波動を流し

続けているのか、そういうことを感じます。

死んで花実はいきません。

これは、世間で言われていることとは、趣を異にしますが、肉体を持ったならば、可能な限り、その肉体を活用していかねばなりません。

無闇に自分の都合だけで、せっかく用意してきた肉体を粗末にしてはいけないのです。

財を築き、有名になるために、それだけのために活用するというのではなく、自分がお母さんに、私を生んでくださいと言ったその必死な思いに、誠実に応えていく道を、そして、自分の願い通りに、自分に肉体を持たせたことを、可能な限り活用していく道を、選んでください。

人間の泣き所は、生命と財産の消失です

人間の泣き所は、生命と財産の消失です。

そういう場面に遭遇したときに、人間の心は、ちぎに乱れ、心の中にある闇の部分が浮き彫りになってきます。

私は何のために生きているのか。

私の人生とは何だろうか。

自分に対して、このような問いかけが、これから色々な現象を通して、何度も自分の心の中にながてくると思います。

それぞれに、自分の存在価値、存在意義、それを問いただす現象が起こってきます。

物に溢れ、生活が潤い、物質的に豊かになればなるほど、その闇の部分も

大きく浮上していきます。

人間の心の中にある恐怖、不安、寂寥<sup>せきりょう</sup>、様々な闇の部分が、はつきりと浮かび上がってくる現象が起こってくるのです。

例えば、今、世の中は不景気です。職を失う人がたくさんいます。リストラされて、不安な日々を送っておられる方もたくさんいると思います。

一生懸命に働いてきたのに、一生懸命にやってきたのに、その思いとは全く相容れない状況が目の前に展開していったとき、その時、あなたの心にかつてくる思いは、一体どんな思いでしょうか。

職を失うということは、普通、人生において大きな問題でしょう。

自己都合で職を退く場合と違って、不本意な失業は、心に何らかの衝撃を受けることは間違いありません。

もちろん、一番は、経済的な問題です。発端は、経済的な行き詰まりから、

やがて、そこから不安、焦り、怒り等々の思いが、次から次へと噴き出してくるのです。

その他にも、今まで考えもしなかったこと、思いもしなかったことに触れていく場合があります。

先行き不透明な不安は、さらに不安を煽<sup>あお</sup>ります。

それは、単に経済的に窮しているからというだけではないかもしれません。もっと自分の心の底のほうから突き上がってくる何とも言えない不安や、やるせない思い、空虚さを感じていくのではないのでしょうか。

不景気、経済情勢の悪化の現象から、人は様々な思いを吐き出します。そこから何かを考えていく人もいるでしょうし、生き方、考え方を変えていく人もいるかもしれません。

経済的な問題から端を発し、しかし、決して、そこに留まるだけではなく、

自分の生き方というか、自分の歩いてきた時間、そして、自分そのものを振り返る大きなチャンスなのです。もちろん、この現象は、雇用される側、働く側だけでなく、経済界のトップにいる人達にとっても、自分を振り返る大きなチャンスです。

しかし、なかなかそうはいかないようです。

どんな世界、どんな分野においても、その中において、すでに、ある程度の位置というか、地位に就いてしまえば、自分を方向転換させることは難しいというのが、一般的ではないでしょうか。

ちなみに、経済界のトップにいる人、お二人に語っていただきました。

語り人 N

「私は、経済界に精通してきた者です。会社の運営を主に、私は、自分の使命としてきました。

どうすれば会社が発展していくのか。経済効果は、どのように社会に及ぼしていくのだろうか。会社の果たす役目は、とても重大だと思っています。一会社ではなく、社会そのものにとって、私はなくてはならない存在だと自負しております。

今の世の中、経済は先行き不透明です。皆さんの心の中には、先行きの見えない日本の将来、世界の将来に対して、金融不安が広がっています。

それをどのようにして打開していくのか。私達財界に身を置くものとして、あらゆる限りを尽くしていかねばならないと思っております。」

「あなたの日々は、そのようなことに費やされています。あなたのエネルギーは、身体もすべてそのほうを中心に回っています。」

ここで、私は、ひとつ、あなたに問いかけてみたいと思います。

あなたには、あなたの人生があり、そして、家族がごさいます。あなたは、ひとりの人間です。ひとりの人間として、あなたの心を語ってみてください。」

「はい、私は、今の自分が携わっている様々な問題を除いて、その問題を自分から取り上げたならば、自分というものは、全く、見えてきません。」

私には、解決しなければならぬ問題が山積しています。そのために、日夜、努力している。この心も身体も頭も、すべてすべて、それを中心に回っている。それが私の生きがいです。

たくさんの語録を出しました。人生哲学と言ってもいいでしょうか。私に

は、人生に通じた経営哲学というものがございます。

それを、私自身に当てはめてみますと、ああ、私は、何ともはやお粗末な人間だと思います。

ほとんど家族を顧みることなく、私は、私の信じる道を驀進ぼくしんしてまいりました。家族の悩み、苦しみなどに、私は、心を向けたことがありませんでした。」

「あなたにも家族があるでしょう。」

「そうですね、私にも家族がございます。ですが、私は、その家族のためにあるのではない、私は私のためにある。私には、日本が、この世界が、そう、私にはその使命がある。そのように、自分に言い聞かせてきました。

自分を語ることは、これを抜いては、できません。

はい、私は、Nという鎧を脱ぐことはできない。私の中にこのような思いがあります。

Nをやめるときは、私は、死ぬときでございます。死んで、あの世に行けば、私は、ああ、どうなるのか、今はよく分かりません。ああ、でも、この私はNだという思いが、大きく私の中で広がっています。」

# 語り人O

「はい、私は、Oと申します。何をこれからやっていけばいいのか、すること、するべきことがたくさん、たくさんあって、私のこの頭の中はいっぱいです。世界中が、注目しています。私は、しっかりとせねばならないと、自らを奮い立たせています。」

新しき我が社の旅立ち、由緒ある歴史の中で、私は、その輝かしい場に立たせていただき、本当に幸せ者でございます。

しかし、私は、そのような看板を背負うことが、とても、今、重いと感じています。私には、重責だと感じています。

しっかりとせねばならないという思い、その思いが、私を潰しそうになる。この私は、この苦しみの中にあります。

でも、これは、決して外部に悟られてはなりません。

私は、しっかりとせねばならないのです。私の中には、その思いが渦巻いていて、とても苦しいです。心が休まる 때가ございません。

作られたイメージの中で、私は、そのイメージ通りに振る舞わなければならないのです。内面の苦しさを外に表すことなく、大勢の人の前で、私は、話をしなければなりません。

それが、今、とても苦しいと感じています。

なぜなのか分かりません。なぜなのか分からないけれど、心に突き上がったくる思いは、喜び、嬉しさ、そのようなものではないことは、確かです。

厳しい船出になることを、私は、予感しているのかもしれない。

私の代で、会社に大きなダメージを与えてしまえばどうなるのだろうか、そのことが気がかりでございます。

厳しい競争社会の中で、生き抜いていくだけの私の技量が足りないのかも  
しれません。しかし、私は、この今の地位、名誉、そういったものから、逃  
げることはできない。周りが、私をそこから逃がさない。その中で、私は、  
これから、どのような時間が自分に展開していくのか、全く見通しがつか  
ないのが、現状です。」

会社の繁栄、経済発展が、社会を潤し、人々の生活を豊かにし、人間を豊かにしていくという考えのもとに、自分を、自分のエネルギーすべてを、そこに集中させて時を刻む人達も、いずれは、それに別れを告げなければならぬ時が巡ってきます。

その後、何を思い、何にエネルギーを傾けていくのでしょうか。

さて、人間の泣き所の消失のもうひとつは、健康を損ねることです。

そこで、今、ここで、死ということについて、再度、考えてみましょう。

生まれてくれば、必ず死んでいきます。時が来れば人間は死にます。

それは間違いないことです。

しかし、みんな、普段から自分の死を真正面からとらえる、思う、そういうことはしません。

それはそうでしょう。特に若い時から死を考えて生活をしている人なんて、ほとんどいないと思います。

まだまだ自分には時間がある、無意識のうちに、そのように思っていると思います。

しかし、ひとたび健康を損ない、それも死の影が、ちらつき始めるほどの大病を患うとか、あるいは、死と直結するほどの大事故に巻き込まれた場合は、どうでしょうか。

そういった場合には、死というものを、急に身近に感じるけれども、それでも、死を真正面から思うことは、なかなかできないのではないのでしょうか。なかなかできないというのは、死んだ後、自分はどうなっていくのか判然としないから、いいえ、死んだら終わり、死んだら自分は消えてなくなるという恐怖があるからではないでしょうか。

漫然と生きてきたつもりはないにしても、なぜ自分は生まれてきたのか、なぜ自分は今ここにあるのか、今の環境、今の生活の中で、そういうことは、あまり考えないし、思わないでしょう。

それどころか、そういうことを、全く抜きにして生活をしてきていると思います。

だから、その中で、病氣や事故や、その他死を連想する出来事に遭遇していった場合、その現実を受け止めることに、かなりの時間を要するでしょう。そして、一瞬のうちに死んでしまった場合は、言うまでもないことですが、生きていく時間が少し先に延びても、死を真正面から思うことは、できないのです。

私は、自分の死を、真正面から受け止めていくには、まず、自分が今、存在している意味が、はっきりと心で分かってくるのが、必要なのだと思っ

ています。

そのことが、自分の心で分かってきたときに、生きることは喜びでした、今が喜びでしたという思いが湧いて出てきます。生まれてきたことに心から感謝の思いが湧いて出てきます。そうなってくれば、生というものに執着して、死に恐怖するのではなくて、自分が今、ここにある喜びから、自分の死を見つめていくことができるのではないかと思うのです。

そして、自分の肉体に対して、執着するのではなくて、肉体を今持つている自分を、本当の意味で大切にしていこうとするのではないのでしょうか。

ところで、死を真正面から受け止めていくことが難しいとしても、死というものを考えるほどの大病を患えば、人間は、やはり、何かを考えるとと思います。

それは、やがて、同じ病を得た者同士、あるいはその家族の人達が、自分

や自分の家族の病氣を通して、互いに話し合うというような場に発展していかくかもしれません。

一人で思い悩むよりも、共通の痛みを互いに分かち合いたいという思いから、そのような場があつても不思議ではありません。

今、ふと、そのような場に思いを向けました。

「どうぞ、そこに集っている人達、思いを聞かせてください。」

「はい、いくら語つても、私達の不安を取り除くことはできません。  
何時、ガンが再発するのか。

この身体は、ああ今にも、そのガン細胞に蝕まれているのではないのか。

そんな不安を抱えながら、私達は、自分達の苦しみを話し合っています。話し合っているといっても、みんな、本当は自分の心の内を語ることはできません。

自分達は、死を目の前に、その恐怖の思いを、ひた隠しに隠しています。綺麗な言葉を並べていても、本当は死を恐れています。

自分の病と真向かいになっていると言いながら、私達は自分の病から目を背けています。

自分の肉体細胞に思いを向けることを知りません。優しい思いを向けることをしていません。

ただ、ただ、死を恐れている。

明日をも知れない命、ああ少しでも苦痛から逃れたい。ああ、私達は、この先どのくらい生きるのだろうか、命はどのくらい持つのだろうか、できれ

ば、ガン細胞の恐怖から逃れたい。そんな思いを隠しながら、私達は、話をしているに過ぎません。

互いに苦しい思いを吐き出しても、自分の心の苦しみの解消には至っていないことが、私達には分かりません。

しかし、家に閉じこもり、自分の中に閉じこもっているよりは、外に向かって、今、自分が思っていること、感じていることを、互いに話すことで、気が紛れる、その程度だと思えます。

これが私達の現実です。死を恐れる思い、死の恐怖から逃れたい思いが先行します。

そして、なぜ、ガン細胞は私達を苦しめるのか、ガン細胞は、私達を苦しめている、そう思っています。

だから、ガン細胞に対して、優しい思いを向けることはできません。」

どうでしょう。思いを聞かれて、あなたは どう思いますか。

私は、やはり、自分が生まれてきた意味が分からなくては、死を真つ直ぐに見つめることができないと、そう感じました。

共通の思いを抱え、そのところから互いに励まし合って、互いに元気を取り戻すことはあるかもしれません。しかし、それは、ほとんど表面的なものでしょう。

自分達の心の底にある苦しみ、哀しみ、そして、心の底からの叫び、そういうものには、ほとんど手付かずの状態です。

自分達の心の中の状態がどのようなものなのか、そのような上辺だけの語らい、励まし合いでは、如何ともし難いものがあると私は感じています。

どれだけ、医学の力によつて、命の時間を引き延ばすことができて、やがてやってくる死です。

本当に語り合いたかった苦しみも、哀しみも、吐き出したかった心の叫びも、そのまま自分の中に残し、やがてその肉体を終えていく人達がほとんどなのではないでしょうか。

私は、その思いを感じ、とても残念です。

自分の過ちに気付きたいと、お母さんに生んでくださいとお願いした思いに沿わずに、また、その肉体を離していく無念を感じます。

しかし、その一方では、それぞれが自分の中で、ああそうだったと気付くまで、どれだけ何を言つても、ダメなのだというこれも、感じています。

ここで、参考までに、ある人の思いを聞いてください。

語り人P

「私は、自分をとても聡明で、素晴らしいと思っています。私は、自分の頭、自分自身をととても誇っております。私は、自分は素晴らしい、そう思っていました。」

私の中にあるものは、無限の力でございます。私の心の中は、平和を訴えています。みんなが、幸せになれるように、世界中の人間が幸せになれるように、私は、そのことをずっと思って、活動をしてまいりました。」

「あなたは、健康を損なわれましたね。それについて、どのように思っていますか。」

「はい、事実を知ったときは、ショックでした。まさか、自分がこんな病気になるなんて、思いもありませんでした。

私は、まだ死にたくない、死にたくない、死にたくない。私には、まだまだするべきことが、たくさんある。こんなに若いのに、死にたくない、死にたくない。

私には家族がいます。私には、やるべきことがあります。私の人生、まだ終わらせないでください。そのように神様にお願いました。

なぜ、私は、こんな病気になったのだろうか。私は、悔しい思いでいっぱいでした。そして、何とか、何とか助かりたい思いで、藁をもすがる思いで、手術を受けました。身体にメスを入れました。

私は、早く、その部分を自分の中から切り取ってほしかったんです。とても恐怖の種でした。そんなものは早く、自分の身体から切り捨てたかった。

そして、私は、同じ病を得た人達と知り合いました。みんな私と同じ思いを抱えていました。不安な思い、恐怖の思い、苦しい思い、辛い思い、色々な思いを語り合いながら、私達はともに励まし合いながら、ひとつの運動を立ち上げました。そう、私達にとって、私達の行く手を阻むものとして、自分達の身体に巣食ったものは、私達の敵でした。

こんなことで、自分達の人生を狂わせたくない。私達は、その思いをひとつにして、同じ苦しみを抱えている人達に、訴えました。

こんなにみんな元気になるよ。みんな、頑張ろう、頑張ろう。手に手を取って、励まし合いながら、人の輪を広げていくこと、ああ、これだ、これだ、これが、私が、世界中のみんなが幸せになる活動をしてきた私が、やっていくことだったんだ。今、そのように思っています。」

ここで、再び切なる思いから、語らせていただきます。聞いてください。  
切なる思いとは、すでに記した通り、心の叫びです。

それは、私の心の叫びです。そして、あなたの心の叫びでもあります。

私達は、切なる思いを心に秘めてきました。それは、どなたも同じです。

「私達は、たったひとりの人間ではありません。

今、形に現れているのは、ひとつの肉体です。その肉体を指して、私達ではないのです。確かに、ひとつの肉体を持って、私達は、今ここに存在しています。

しかし、この肉体は、たくさんの自分達の代表なのです。

たくさんの自分達が、ひとつの肉体を持たせていると思ってください。

私達は、自分が苦しいこと、そして、なぜ苦しいのかということ、何かが

間違っていることを、自分に知らせてくたて、何度も、何度も生まれてきました。つまり、肉体を持つことを体験してきました。

しかし、その修正には、みんなことごとく失敗してきたのです。

肉体を持てば最後、切なる私達の思いは、かき消されていきました。

目や耳や皮膚を通して入ってくる情報に、かき消されてしまうのです。

本当は、それらのものは、私達の思いを呼び起こすように活用されなければならなかったのです。

しかし、残念ながら、そうはいきませんでした。

目や耳やそういうものは、今ある肉体、それもたったひとつの肉体の思いを満たすために、使われていきました。

そうではないのです。

あなたが見て、聞いて、触れて、そして、そこから何を感じ、どんな思い

を自分の中で広げていくか、そういう方向に使っていけば、あなたの心に、  
どんどん私達の切なる思いが響いてくるはずなのです。

人間は、感じる生き物だからです。

人間の心は、様々なものを感じます。

ただ、正しく自分を把握してこなかったから、その感じたものを、本当に  
自分のために活かすことができなかったのです。

ひとつの肉体だけを自分だとしてしまつては、どんなにしても、切なる思  
いが心に響いてきません。

思いが響いてこなければ、響くまで自分自身は苦しんでいきます。

どんなに形で満たされても、心は満たされない苦しみが続きます。」

これまで、いくつかのサンプルから、あなたは、何を感じられたでしょうか。

老いも若きも、そして男も女も、一人の人間として、この世に生まれ出てきたならば、この切なる思いを、自分の中で知っていくことが、それが人として生きる本当の道です。

あなたが、もし、今、形に現れているたったひとりの人間ならば、今の仕事を一生懸命にして、今の家族を大切にして、あるいは、夢を追いかけて、それでそれなりの幸せ、喜びの時間が流れていくかもしれません。

その次元では、その幸せも喜びも否定するものではないにしても、あなたは、たったひとりの人間ではないから、そういうものが、あなたの本当の幸せ、喜びに繋がってこないのです。

どうか、それぞれ一人ひとり、切なる思いが自分の中に響いてくるような、そんな人間に蘇っていただくさい。

そして、私達は、何のために生まれてきたのか、本当にそこに戻っていつ

てください。

夢を追うのも結構、お金を稼ぐのも結構。しかし、なぜ、私達は生まれてきたのかということが分からずに、夢を追いかけて、お金を稼ぐ人生とは、一体何だろうか、考えてみてください。

# 意識の流れ

語り人Lさんのところでも触れましたが、「意識の流れ」について、少し  
思いを語らせていただきます。

詳細は、「意識の流れ」というタイトルの本が、UTAブックさんのほう  
から出版されていますので、そちらを熟読してください。

私は、自分の中に時間が流れていることを感じています。

そして、その時間は、私の今の肉体時計で示される時間とは違い、これか  
らも永遠に続いていくことを感じています。

言ってみれば、私は、永遠に続いていく時間の中にあって、それが私自身  
だと感じ、信じています。

いいえ、ただ感じ、信じているだけではなくて、それが私の現実だと確信  
しているのです。

だから、私は、目を閉じ、ふうっと息を吐いて、ある方向に自分の心に向けたとき、私の中から喜びが、ある時には、ふつふつと、そしてある時には、爆発的に湧き上がってきます。

「これが本当の私なんだ。私の世界はここにある」、そんな思いを、これまでに幾度も感じてきました。

やがて、私は、自分がなぜ生まれてきたのか、何をするために今があるのか、そして、今、私が纏まとっているこの肉体と、私とはどのような関係があるのか、そういうことが、明確に心に響いてくるようになったのです。

もちろん、そこに至るまで、私自身も、狂い続けてきましたし、苦しみ喘いできました。

自分の心の奥底にある寂寥せきりようも、心にしっかりと響いていました。

そして、それがすべて私の転生だったことを感じてきました。計り知れな

い時間の中で、私が生まれて、私が死んでいきました。

その数え切れない繰り返しは、みんな私の血となり肉となって、今の私を支えてくれています。

心を繋ぎ、命を繋ぎ、必死の思いで、今という時を迎えた私に、真っ直ぐに伝えてくれた人がありました。

その人は、外目には、何の変哲もない人でした。

その人との最初の出会いから、約十六年の年月が流れています。

その人の姓は、田池、そして、名は、留吉。日本人、男性、今はもう老人です。

姓の田池というのは、少し珍しいです。池田という姓はよくありますが

……。そして、留吉という名に至っては……という思いが、個人的にはありませんでしたが、まあ名前など何でもいいです。

とにかく、田池留吉という人との出会いから、はや十六年の月日が経ちました。

私は、その間に、形の世界を根本とする生き方から、意識・波動の世界を根本とする生き方へ、自分の方向を変えていくことが、何よりも大切なことであり、唯一しなければならぬことだと学ばせていただきました。

過去、田池留吉という人が中心となって開催されてきたセミナー（心を見る勉強会）を通し、私は、自分自身のあり方、いいえ、人間のあり方の根本が、全く間違ってきたことに、気付かせていただいたのです。

そして、私は、「人間は意識、人間は永遠に存在するエネルギー」を根本とした物の見方、考え方、生き方を、自分の中で大切に育んできました。

ところで、本書には、私自身、全く意識のない人達に思いを向けて、その人達の意識の世界を感じていくことを試みた件くだりがあります。

それは、人間は意識だから、思えば意識は語ってくることを証明するためでした。

ただし、語ってくると言っても、私が受け取るのは、その人の波動です。一般的に、語ってくると言えば、言葉を連想されるかもしれませんが、私が通じ合わせる世界は、その人の意識・波動の世界です。

そして、それを、形の世界の中で理解していただくために、感じた意識・波動の世界を、形にします。つまり、言葉に置き換える作業をしました。

目を閉じて思いを向け、そして、伝わってくるものを言葉に置き換える。ただそれだけで、そこには、私の頭は一切介入していないことを断っておきます。

私は、人間は意識であり、その意識・波動の世界こそがその人を物語っていると、確信しています。

だから、その人の偽らざる思いを聞きたければ、私は、その人と意識の世界で語り合います。

ただ、形の世界を本物だと信じて疑わない人達の意識・波動の世界は、どんなに語り合おうとしても、平行線のままです。

このこともまた、今回の試みで、理解していただけたらと思っています。

田池留吉という人との出会いから十六年を経た今、私は、その人を通して伝えていただいた「意識の流れ」というものを、自分の心で確実に知るようになったのです。

さて、「意識の流れ」の流れとは、どのようなものなのでしょうか。

水の流れなら、目に見えます。

今、水かさがどの程度なのか、流れは速いのか、それともゆったりと流れているのか、その透明度はどうなのか、水温はどうなのかというように、自分の目などで確かめることができます。

しかし、「意識の流れ」はそうはいきません。

確かめることができるのは、それぞれの心でしかありません。

そして、心で確かめるためには、心が何らかの反応をしなければなりません。

何かに固まったままでは、反応が鈍いです。そうかといって、色々なものに反応してしまつて、肝心なものが分かりづらいという場合もあります。

私は、先ほど、ある方向に自分の心を向けると書きましたが、そのある方向というのは、田池留吉という人物が指し示す方向です。

しかし、この心に向けることが難行苦行です。

省略して、田池留吉に心向けると言えば、分かりやすいかもしれませんが、これは一方では危険を伴います。

他力信仰を重ねてきた人には、大きな落とし穴かもしれません。それは、その人達は、教祖、指導者、偶像崇拜といった崇め奉る心癖を持っているからです。

そこには、膨大な欲の思いが渦巻いていて、それが叶わないときに、やがてその思いは、憎悪、呪いに変わっていく他力のエネルギーがあります。

「意識の流れ」は、この他力のエネルギーの恐ろしさも、はつきりと伝えてくれるでしょう。

つまり、人間が作ってきた宗教の世界の崩壊が、この流れとともに、始まっています。

宗教は、人間が作ってきたものです。

宗教は、本当のことを知らない愚かな人間達が、自分達の欲を満たすために作った産物です。

その実態を、これから、じっくりと自分達の目で耳で、そして、その心で感じていくようになっていきます。

そうです。崩壊していくのは、宗教の世界だけではありません。

どれだけのすさまじいエネルギーで、すべてを破壊し尽くしてきたか、「意識の流れ」の台頭とともに、それが、はつきりと示されていきます。

「意識の流れ」は、真実を私達に伝えてくれる愛のメッセージです。

それは、すなわち、天変地異という形で示されていきます。天変地異という大きな愛の流れの中で、私達は自らを目覚めさせるのです。

愛とは、真実に目覚めよという大いなるメッセージです。

形の世界を本物としてきた人間の心、頭、そういうものでは、到底計り知

れないものなのです。

その愛を、「意識の流れ」は伝えてくれました。

「意識の流れ」は、あなたに、本当の愛を、これからも伝え続けてくれるのです。

この流れとともに流れ続けていく喜びと幸せを伝え続けます。

あなたは愛です、本当の愛に、本当のあなたに帰っていきましょう、そう伝え続けてくれるのが、「意識の流れ」です。

この「意識の流れ」の台頭を、初めて、今の肉体を通して知る、知ったということは、本当にすごいことなのです。

地球という星に転生を繰り返して、ようやく、その時期に至ったことを、誰よりも、誰よりも、喜んでくれている人物が、田池留吉という人物です。

私は、だから、もちろん、この人物を教祖とも指導者とも思っていないせん。

ましてや、この人からオーラが出ているなど、論外です。ただ、私は、私達は、その「意識の流れ」の中にある、その喜びと幸せを共有していることを感じています。

それは、まさに、私はあなた、あなたは私、ひとつの喜びと幸せです。

とにかく、心で感じ、感じたものを信じていく、それをたゆまず、焦らず、真摯にやっつけていこうという呼びかけのもとに、セミナーが展開されていきました。

二十数年かけて続いてきたセミナーを通して、ようやく、「意識の流れ」が日の目を見るようになりました。

その「意識の流れ」から、次のようなメッセージを、掲載します。これは、もちろん一例です。

あなたが帰るところはここですよ。あなたは、長い、長い間、ずっと探していたでしょう。ようやく、私達は出会うことができたのですよ。私は、そのことを大変喜んでいます。

私は、名もなく地位もなく、どこにでもいる一人の老人です。

大抵の人は思います。何の変哲もない人だなあ……。だからいいのです。

私に、心を向ければ向けるほど、あなたの中に変化が起こってきます。

その変化をどうぞ、自分の中で、しっかりと見つめていってください。

私に心に向けていれば、あなたは、絶対に狂うことなどありません。どんなにすさまじいエネルギーを感じたとしても、大丈夫です。

反対に、私から心を離していけば、あなたは、自分のエネルギーによって、自らを破壊させていくでしょう。

そのことを、私は、何の変哲もないひとつの肉体を持って伝えにきたので

す。

あなたは、あなたを知るために生まれてきたはずです。

そして、あなたは、私を知るために生まれてきました。

あなたを知り、私を知っていく方法を、私は、あなたに伝え続けました。

今ももちろん、私は、あなたに伝え続けていますし、これからも伝え続けていきます。

それが私という存在です。あなたの中の私という存在です。

私は、仕事をしています。あなたの中で、絶えず仕事をしているのです。

人間は、転生を重ねるごとに、自分の本質を忘れ去っていきました。本当の自分を置き去りにして、実体のない自分を自分だとしてきたのです。

その時間は膨大です。

その思いは、膨大な時間をかけて、人間の心に染み込んでしまっているか

ら、私の伝えようとする事柄に、本当に感応する人に出会うことは、大変難しいことでした。

しかし、それでは、私が肉体を持つてくる意味がなくなるのです。

しかし、「意識の流れ」は、私に肉体を持たせました。

だから、大変難しいといっても、それは達成するべきものであり、必ず、そうなることに、愚かな私にも確信がありました。

私達人間は意識、永遠に存在するエネルギーです。

この真実の世界の扉は、今、大きく開かれています。

すべての意識達を、その中に誘<sup>いざな</sup>うように、大きく開かれた状態です。

ただ、その中に入ってくるのも自由、入ってこないのも自由、それは、そ

れぞれが選択していくことです。

私は、以前より、自己選択、自己責任という言葉を出してきました。

自分で選び、選んだ結果は自分で責任を持つ、これが意識の世界の法則です。

私達は、その世界に存在しています。だから、私達は法だとも表現してきました。

そうです。

「意識の流れ」の流れは、変えることもできなければ、曲げることもできないのです。

人間社会が作った法ならば、それは可能です。変えたり、曲げたり、何でもOKです。

うまく、法をかいくぐって生きていくことも可能はずです。

と、思っているところに、人間の無知な姿があります。

自分ではうまく、賢くやってのけたと思っているけれど、最後までそのまま行くはずなどないのです。

やがてそれは、何らかの形を通して、自分に戻ってくるだけのことです。

それがどんな形なのか分からないし、何時なのかも分からないけれど、必ず、自分の出してきた間違った思いは、自分に戻ってくるのです。

もうお分かりでしょう。

私達は、形の世界にあるのではなくて、意識の世界に存在しているからです。冒頭にご紹介した通り、形の世界は、 $1+2+3$ 、そして、 $1+2+3$ でもいい世界です。

しかし、意識の世界は、 $1+2+3$ だけの世界です。

私達人間は意識、永遠に存在するエネルギーです。

## おわりに

最初に書かせていただいたように、私自身は、ようやく自分が探し求めてきた真実に辿り着きました。

真実の世界を、自分の中で明らかにしていく道のりは、率直に申しまして、厳しいです。

単純明快な真実の世界ですが、それは、一足飛びに理解できるような世界ではありません。

そしてまた、人間は、そんなに簡単に、真実の世界に心を向けることができないような時間を、これまでにたくさん経てきました。

しかし、その真実の世界に、ほんの少しでも心を向ける人があり、ほんの

僅かでも、心を向けていただけるならば、そうなんですよ、そうだったんですよと、私は、はつきりと伝えるつもりです。

私の思いを、最後のまとめとして、ここに綴ります。

間違つて存在してきたことと、何も知らずに存在してきたことは、それぞれの時間の中で、いつか必ず自分に伝える時がやってきます。それが、意識の流れというものです。

私は、その流れを心で、今、しっかりと感じているから、自分の目の前に広がっている空間の中で、見て、聞いて、感じても、私は、自分の心で感じるものだけを、信じています。目を閉じて、自分の心で感じる世界がすべてです。

今、私は、そのことを自分に伝えていく喜びの中にあります。

形がどれだけ整い、それが幸せ、喜びだと世の中が大騒ぎしても、私の意識の世界から返ってくる答えは、ノーなのです。

私の意識の世界は、心で感じるこの世界の喜び、幸せ、すべてがここに集約されていることを伝えてきます。

「人間は肉ではない、人間は意識だ」。たくさんの出来事から、心の中にそう叫んでいる私を感じ、今、私は、その喜びの中にあります。

どんなに形が整い、どんなに形で尽くされ、どんなに形に恵まれても、私自身、自分の本当の姿に行き着くまで、この心が納得しませんでした。それが私の歴史でした。

求めて、求めて、探して、探して、あれも違う、これも違う、こんなことではなかった。そのような中で、私は、今までの転生を通過してきました。

そして、今に至っています。

形を本物として、肉体ある自分が自分だとしてきた思いが、すべて根底から崩れていったとき、私は、自分の中に本当の自分がしっかりと存在していることに、気付いたのです。

「私は、永遠に存在する意識だ、過去より未来へ続く時間がすべて私だった」。このところに到達した私は、自分の時間が永遠であることを根本にして、今を見つめています。

その思いから、私は、あなたに問いかけます。

あなたは、今、本当に幸せですか。

あなたは、何のために、生まれてきたのですか。

そして、あなたは、何のために死んでいくのですか。

生まれてから、死んでいくまでの間に、あなたがすべきことは何なのでしょ  
うか。

心の底から、そう問いかけてほしいと思います。

また、これから、申し上げることは、あなたが、今、信じていることができても、  
できなくても、いいえ、否定する思いが強くても、私は構いません。

ただ、私はお伝えしたいだけなのです。

私達人間は、この地球上で数え切れないほどの転生を繰り返してきました。

その時間は莫大な時間です。

しかし、それも、もうあと僅かを残すだけとなりました。

「意識の流れ」は、私達に次元移行を伝えてきています。

それは、簡単に言えば、三次元の地球にある意識が、四次元へ次元を移行

していくということです。

縦、横、高さの三次元の空間から移行していく流れの中にあることを、「意識の流れ」は、はっきりと伝えてきています。そして、その時間は、あと三百年です。

その後、この地球はどうなっているのか。そこに留まる意識、つまり、形の世界に留まる意識はどうなっているのか。それが、これから三百年に至る時間の中で、徐々に明らかになっていくことでしょう。

この「意識の流れ」は、厳然としてあるのです。

だから、その中で、人は、様々な出来事を通し、色々な人に出会い、みんなそれぞれに、自分の中の苦しみ、暗さ、間違い、そういうものに出会っていくようになっていきます。

その中で、私達は、まず、自分が苦しいということを知っていかなければならないのです。

今まで、自分の苦しみはみんな外からやってくるものだとしてきました。そうではなくて、自分自身がすでに苦しかったことに、気付いていかなければなりません。

では、なぜ自分は苦しいのか。それも、知っていかなければならないのです。これからは、あれが悪かった、これが悪かった、このせいだ、あのせいだ、もうそういうことは言っていられない大変な時がやってきます。

誰にも、何処にも、自分達の苦しみを訴えることのできない状況が、私達を待っています。

それが、天変地異です。

それも、そのスケールは、今までのものとは桁外れに大きいのです。

例えば、それが地震であるならば、マグニチュード云々など、おそらく計測できない規模だろうと思います。

「意識の流れ」は仕事をします。

その台頭とともに、天変地異というエネルギーは、この地球を含む宇宙の中で、仕事をします。

そして、ますますそのエネルギーは巨大化していきます。

天変地異は、自分の存在を根底から覆すものです。

形を本物としてきた思いを根底から覆すものです。

助けてください、私は死にたくない、私はどこへ行くんだろう。ああ、死にたくない、死にたくない、このまま私が消え去っていくのが怖い。お母さん、助けてください。そんな思いを自分の中で、それぞれがはつきりと感じるとき、それが、天変地異でございます。

今、まさに自分の命の灯火が消えようとするときに、私は、そう、間違ってきた、間違っていましたと、そうやって死んでいくのを、これから、それが体験するのです。

今、心を静かにお母さんに向ける時を、自らに与えている人達が、学びの仲間にいます。

学びの機会を得たということが、どれだけ幸せなことなのか、心でしっかりと感じていただくさいと、私は伝えたいと思います。

お母さんの思いを心の中に広げていける今を、大切にしていきましょう。

これから三百年の時を経る間、様々な事柄が、あなた自身を待っていると思います。

心を狂わせるときが待っています。そのような中においても、しっかりと

お母さんを思う方向に、そして、本来の自分を見つめる方向へ、一步一步、歩み出してくださいように、今世の時間を大切にしていってください。

学びに出会わせていただきました。

自分の心を見ることが、自分のエネルギーを知り、そして、たったひとつの真実の方向へ少しずつでも心を向けることをやっていくこと、それだけをして、今世の肉を終えていってください。

どれだけさまざまなエネルギーの中を、心を繋ぎ、命を繋いできたか。それぞれがそれぞれの中で、しっかりと感じていくことがすべてです。

学びに繋がった人は、ほんの一握りかもしれません。

しかし、その繋がった人達と何らかの形で繋がってくる人達に向けて、どうぞ、あなたの心をしっかりと見ていってくださいと、お伝えしてください。真っ暗な、真っ暗な、地獄の奥底から生まれてきた私達でした。

あなた、どうぞ、このままで死なないでください。

さあどうぞ、自分を振り返ってみてください。

あなたはこれでいいと言われるかもしれませんが。しかし、本当にそうなのでしょうかと、何かの機会があれば、真っ直ぐにしっかりと行ってあげてください。

私達は、一人でも多くの人達との出会いを待っています。

私達は、喜びの道を一人でも多くの方が歩いてくださるよう、心待ちにしています。

塩川香世（しおかわかよ）

1959 年 3 月大阪市に生まれる。

1991 年 3 月税理士登録。

税務関係業務に従事、現在に至る。

著書／「ありがとう」意識の流れ姉妹編

「母なる宇宙とともに I」

「母なる宇宙とともに II」

「意識の転回」

「愛と死の真実」

あなた、このまま死んでいいのでしょうか？

初版発行 2009 年 5 月 30 日

|   |   |                                   |
|---|---|-----------------------------------|
| 著 | 者 | 塩川香世                              |
| 発 | 行 | 株式会社シルクふぁみりい                      |
|   |   | 奈良県北葛城郡広陵町馬見北 4 丁目 14-7           |
|   |   | TEL 0745-55-8522 FAX 0745-55-8440 |

|       |            |
|-------|------------|
| 印刷・製本 | モリモト印刷株式会社 |
|-------|------------|

© Kayo Shiokawa, Printed in Japan 2009

落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。

# UTA ブック

## 意識の流れ 改訂版 アルバートとともにー

田池留吉著／A 5判／定価 800 円

私の思いは、あなたに本当のことを知ってもらいたい、真実に出会っていただきたいということなのです。あなたは今までに「この世のどこかに真実というものがある」「今はまだ分からないけれど、絶対に変わることのない本当のことがある」、そう考えてみたことはないですか。

## ありがとう

塩川香世著／A 5判／定価 800 円

私は、自分というものの本質を知らない人間は、全く無知でしかないと思うのです。本当の自分を知らないのだから、自分自身を語ることもできなければ、人生を語ることもできないのではないのでしょうか。では、自分を知るとはどういうことなのでしょう。

## 母なる宇宙とともに I

塩川香世著／四六判／定価 700 円

読み進めていくうちに、心に何かが伝わっていくと思います。それを私は波動だと言っておきます。もっと言えば、母なる宇宙からの波動を心で感じていかれると思います。何気ない題材を通して、私はその波動をお伝えしたいと思っています。

## 愛と死の真実

塩川香世著／四六判／定価 700 円

あなたは、これまでに自分の死を考えたことがありますか。自分が死ぬ、人が死ぬ、それは、どういことだろうかと思ったことがありますか。命が大切なのは、みんな知っています。だけど、命とは何でしょう？なぜ命を大切にしなければならぬのでしょうか？

## 母親のぬくもり ー子供の問題ー

本田せつ子著／A 5判／定価 800 円

いじめ・自殺・虐待等、子供を取り巻く環境は狂っているときと言えない状況です。しかしその原因を論じ合っても根本解決は出来ません。子供の問題が私達へのシグナルだとすれば、一体何を伝えようとしているのでしょうか。

## 家族の風景 ー地獄の世界からの脱出ー

本田せつ子著／四六判／定価 700 円

家族の中で諍（いさか）いが始まるとき、そこには大きなエネルギーが働きます。相手と思う、よかれと思ってそうしているのに……でもその根本には、他の思いがあることに気付かれるのでしょうか。結局は、自分のためではなかったのでしょうか。

## 続 意識の流れー正しい瞑想をしようー

田池留吉著／四六判／定価 700 円

私達の意識は永遠です。生まれてから死ぬまでが私達の時間ではありません。私達の時間は、死んで途切れることなく、ずっと続いています。その時間の中で、今、一つの肉体を持っているだけです。

## 意識の転回

塩川香世著／四六判／定価 700 円

意識の転回を、どうぞ、始めてください。肉からの脱却のために、これからあることを感じていってください。人間の本当の喜びも幸せも、そして、人間という存在そのものも、「意識の転回」なくしては分かりません。では、意識の転回とはなんなのでしょう？

## 母なる宇宙とともに II

塩川香世著／四六判／定価 700 円

自分の原点を知る！自分の源を知る！それが今、宇宙という意識の世界に心を向けていくことで、自分の心で感じ、そして、それが信じられるまでに至ったということだと来ます。私たちは、永遠の過去から永遠の未来へと続く中に存在しているエネルギーです。

## あなた、このまま死んでいいのでしょうか？

塩川香世著／四六判／定価 700 円

今、あなたは、何を思っていますか。あなたにとって、一番大切なことは何ですか。私は、たったひとつの真実を求めて、今の時代に生まれてきました。そして、半世紀の時間を経てきました。ようやく辿り着いた真実の世界は、実に単純明快な世界でした

## 幸せへの道が開かれて

ー精神障害から喜びの世界へー

本田せつ子著／四六判／定価 700 円

精神障害者、平たく言えば、気の狂った人とは、いったいどのような人のことを言うのでしょうか。誰がそんな判断を下すのでしょうか。そしてそれは特別なことでしょうか。

## 時を超えて伝えたいこと ーかつて日本に生きた者から未来の自分へのメッセージー

桐生敏明著／四六判／定価 700 円

君の時代にも、まだ日本という国は存在するのだろうか？僕の生まれた国、僕が生きた国、そして大切な人たちと出会った国だ。僕は今、日本という国に生きている。この国で大事な人と出会い、大事なことを伝えられた。